

板 木

群馬県へき地教育研究資料第68集



「現存する板木」(みなかみ町)

令和2年3月

群馬県教育委員会
群馬県へき地教育研究連盟
群馬県へき地教育振興会

板 木

群馬県へき地教育研究資料第68集

序



へき地教育研究資料「板木」の歴史は古く、創刊は昭和27年に遡ります。この年は、群馬県へき地教育連盟が発足した年でもあります。今年度で第68集となる「板木」は、群馬県のへき地教育の営みの結晶であるとともに、へき地教育を語る重要な資料であります。改めて、へき地教育の振興に御尽力いただきました多くの方々の御努力に対し、心から敬意と感謝の意を表します。へき地教育の振興につきましては、昭和29年の「へき地教育振興法」の制定以来、さまざまな施策を実施してまいりました。今年度も、へき地教育振興会への補助、へき地教育

センター運営費及びへき地学校巡回図書費の補助、県へき地教育研究大会の開催などの施策を推進しております。また、複式学級を有する小学校に特配教諭や非常勤講師を配置することにより、学年ごとの授業が実施できるようにもしております。

群馬県では、今年度より5カ年計画で進めております「第3期群馬県教育振興基本計画」の基本施策の1つ「信頼される学校づくり」の柱として「特色ある学校づくりを推進する」を掲げ、学校・家庭・地域が連携・協働しながら一体となって児童生徒の健やかな成長を支えていく「地域に開かれた学校づくり」や、「地域に根ざした学校づくり」を進めているところです。そのような中、県内のへき地校では、自然に恵まれた教育環境や地域とのつながりを生かした特色ある教育活動を展開するとともに、小規模校ならではの特性を生かした、子どもたち一人一人に応じたきめ細やかな指導の充実・改善などにも努めていただいております。

今年度の県へき地教育研究大会は、片品村を会場に、「ふるさとに夢や誇りをもって、未来の創り手となる子どもの育成」をテーマに行われました。班別研究協議では、「生きがいにつながるスポーツに向けたオリ・パラ推進教育」、「生徒の主体性を育てる取組～小規模校の強みを生かした授業と諸行事における生徒主体の活動を通して～」について熱心な協議がなされました。地域人材の活用、生徒主体の授業や諸行事等を通して、郷土の未来を担う夢や誇りをもった子どもたちになって欲しいという思いのつまった実践報告となりました。また、授業公開では、確かな学力の育成を目指し、子どもたち一人一人を大切にした授業が提案されました。

このように、へき地教育に関わる皆様の御努力により、着実にへき地教育の充実が図られております。これらの教育実践は、へき地校のみならず、すべての学校に多くの示唆を与えてくれるものです。今後もこれまでの実践の成果を踏まえつつ、へき地校ならではのよさを生かした教育を、なお一層推進していただきたいと思います。県教育委員会といたしましても、今後さらにへき地教育が発展するよう、関係市町村教育委員会、県へき地教育振興会、県へき地教育研究連盟と連携して、一層努力してまいります。

結びに、へき地教育研究資料「板木」第68集の刊行に御尽力された県へき地教育振興会、県へき地教育研究連盟の関係各位に対し敬意を表しますとともに、各教育機関において「板木」が十分活用されますことを御期待申し上げて序といたします。

令和2年3月

群馬県教育委員会

教育長 笈原 寛

「板木」第68集の刊行に寄せて



群馬県へき地教育振興会は、昭和29年「へき地教育振興法」の施行に伴い、本県へき地教育の諸条件の整備・充実を図ることを期して設立されました。そして、この目標を達成すべく、群馬県教育委員会、関係市町村、市町村教育委員会及び群馬県へき地教育研究連盟とともに、へき地教育に関わる種々の事業に取り組んでまいりました。この間、県当局をはじめ、関係各位の御尽力によって、複式学級の解消などへき地学校における教育条件の整備・充実に向けた取組が着実になされ、大きな成果を挙げてきております。これらは、へき地教育に献身的に取り組まれてきた先生方や、地域において様々な御支援をくださっている多くの方々の御尽力の賜であると心より感謝申し上げます。

ここ数年の教育界は大きな変化が求められておりますが、へき地教育を取り巻く状況もまた、大きく変化をしております。今年度群馬県のへき地学校は32校であり、これは県内の全小中学校数の10%にも満たない数であります。しかし、少子化、過疎化が進む中、地域の核として、へき地学校の重要性はより一層増してきております。

このような中、県内の各へき地学校におきましては、新しい時代を切り拓く子供の育成に向けて、すばらしい教育実践が、日々行われています。豊かな自然やこれまで大切に守られてきた地域の伝統や行事などを生かし、地域と一体となって子供を育成することは、教育の原点であるとともに、県内すべての学校で重視されるべき教育であると考えております。

情報化やグローバル化など、子どもたちの置かれている環境は、大きく変化しています。こうしたグローバル化が進展する社会の中では、一つの出来事が広範囲かつ複雑に伝播し、先を見通すことがますます難しくなっています。そのような時代においても、子供たちが、変化を前向きに受け止め、人と人との関わりの中で鍛え上げた感性を働かせて、現在では思いもつかない新しい未来を創造していく力を育ててほしいと願います。

このたび、へき地教育研究連盟の皆様方が中心となって、本県へき地学校で行われている特色ある教育実践等をまとめた「板木」第68集が刊行されますことは、本県のへき地教育の現状と課題を明確にできるとともに、今後のへき地教育の振興を一層図ることに役立つたいへん意義深いものと考えます。関係各位におかれましては、へき地教育に関する研究や実践をまとめたこの「板木」を十分御活用いただき、群馬県のへき地教育のさらなる発展・充実のために御尽力くださいますよう、心よりお願い申し上げます。

最後に、平素よりへき地教育の振興に御協力いただいております県当局をはじめ、県教育委員会、関係市町村、市町村教育委員会及び各地域の皆様は、厚く御礼申し上げますとともに、一層の御指導と御協力をお願い申し上げます。刊行に寄せての挨拶といたします。

令和2年3月

群馬県へき地教育振興会

会 長 星野 巳喜雄

「板木」第68集の発刊にあたって

平素より関係の皆様にはへき地教育並びに群馬県へき地教育研究連盟の活動に対しまして御支援と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年度も群馬県へき地教育研究資料「板木」が第68集として発刊の運びとなりました。「板木」は、群馬県へき地教育の貴重な資料として長年活用されてきています。これまで「板木」の発刊に携わってこられた多くの皆様のご尽力に対しまして心から敬意を表します。

さて、本県も加盟しております全国へき地教育研究連盟では、今年度より、研究主題「ふるさとに夢や誇りをもって、未来の創り手となる子どもの育成」のもと、第9次長期5か年研究推進計画の1年次がスタートしました。この研究主題は、来年度より小学校で全面実施となる小学校学習指導要領（総則）において、「複雑で予測困難な時代の中でも、児童一人一人が、社会の変化に主体的に向き合って関わり合い、自らの可能性を発揮し多様な他者と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生を切り拓き、未来の創り手となることができるよう、各学校の特色ある教育活動を展開する中で必要な力を育成していく」を受けたものです。現在、へき地学校では、へき地ならではの特色ある学校経営、学習活動が展開され、今や「へき地に光を」ではなく、「へき地から光を」の時代となっており、へき地・複式・小規模校が積み重ねてきた実践を全国へ発信し続けています。

今年度の第68回全国へき地教育研究大会長野大会において、「地域を愛し、社会の変化に主体的に対応できる児童の育成」と題して、藤原小学校・中学校の小中併設校の特性を生かした研究実践を発表してきました。その中で「ユネスコスクールとしての取組」は児童生徒に郷土愛を育み、第9次長期5か年研究推進計画の研究主題に迫る取組として全国から参加した皆様からの支持を得ました。また、第9次長期5か年研究推進計画の研究主題を受けて片品小学校・片品中学校を会場に開催された第68回群馬県へき地教育研究大会において、北軽井沢小学校と中里中学校での研究実践として、地域の特色や小規模校としての強みを生かした取組が発表されました。研究授業では小学校は5年生の体育の授業、中学校は2年生の道徳、3年生の理科の授業が公開されました。3年理科は地元の尾瀬高校の先生とのTTの授業でした。いずれの授業も、へき地校・小規模校としての特性を生かした授業公開でした。

我々が組織する群馬県へき地教育研究連盟は、本県のへき地教育の改善・充実に資することを目的に活動しております。地域の特性を生かし、地域に根ざした教育の推進こそが、未来の創り手となる子供を育成すると確信しております。この「板木」第68集には本連盟のこの1年間の研究実践ならびに研究大会の参加報告等を多数掲載させていただいております。今後の教育実践に活用していただければ幸いに存じます。

結びになりますが、「板木」第68集発刊にあたり執筆や編集に携わっていただきました先生方に御礼を申し上げますとともに、日頃より御指導と御支援をいたしております群馬県教育委員会並びに群馬県へき地教育振興会をはじめ、関係の皆様には深く感謝申し上げます、発刊にあたってのあいさつとさせていただきます。

令和2年3月

群馬県へき地教育研究連盟
理事長 **松本 聡**

も く じ

序 文

序	-----	群馬県教育委員会教育長	笠原 寛
「板木」第68集の刊行に寄せて	-----	群馬県へき地教育振興会長	星野 已喜雄
「板木」第68集の発刊にあたって	-----	群馬県へき地教育研究連盟理事長	松本 聡

第1部 へき地教育の振興

I へき地の学校経営

〈1〉 小学校	草津町立草津小学校長	丸山 三美	-----	1
〈2〉 中学校	片品村立片品中学校長	雲越 誠司	-----	3

II 学習指導の改善に関する実践的な研究 ----- 5

高崎市立倉渕小学校長 小池 政一

III へき地学校における生徒指導の実践

〈1〉 小中一貫校	沼田市立多那小中学校長	瀧間 京子	-----	7
〈2〉 中学校	神流町立中里中学校長	大倉 猛	-----	9

第2部 へき地学校教員研修のあゆみ

I 令和元年度へき地学校教員研修の概要 ----- 11

群馬県へき地教育研究連盟研究部長

沼田市立多那小中学校長 瀧間 京子

II 第68回群馬県へき地教育研究大会

〈1〉 概要 ----- 12

群馬県へき地教育研究連盟研究部長

沼田市立多那小中学校長 瀧間 京子

〈2〉 提案要旨

《小学校班》 長野原町立北軽井沢小学校長 山野 悟 ----- 13

《中学校班》 神流町立中里中学校長 大倉 猛 ----- 15

〈3〉 公開授業・授業研究会

《片品村立片品小学校》

① 小学校 第5学年（体育）	-----	17
片品村立片品小学校教諭	井上 幸大	

《片品村立片品中学校》

① 中学校 第2学年（道徳）	-----	19
片品村立片品中学校教諭	杢井 雅之	
② 中学校 第3学年（理科）	-----	21
片品村立片品中学校教諭	篠澤 敦子	
群馬県立尾瀬高等学校教諭	松井 透	

Ⅲ 第68回全国へき地教育研究大会（長野大会）

〈1〉 概要報告	-----	23
群馬県へき地教育研究連盟研究部長		
沼田市立多那小中学校長	瀧間 京子	
〈2〉 分散会発表者報告	-----	24
第6分散会第2発表		
みなかみ町立藤原小中学校長	石井 恵子	
〈3〉 分科会報告		
B分科会 高山村立高山中学校長	中澤 昌宏	----- 26
C分科会 沼田市立多那小中学校長	瀧間 京子	----- 27
D分科会 みなかみ町立藤原小中学校長	石井 恵子	----- 28
E分科会 利根教育事務所指導主事	吉野 康弘	----- 29
G分科会 高崎市立宮沢小学校長	各務 明彦	----- 30
H分科会 上野村立上野中学校長	荻原 孝英	----- 31
I分科会 東吾妻町立坂上小学校長	尾澤 順子	----- 32
J分科会 東吾妻町立岩島小学校長	松本 聡	----- 33

《資料》

I 令和元年度へき地学校資料	-----	34
II 令和元年度群馬県へき地教育振興会役員・事務担当者・担当指導主事	-----	37
III 令和元年度群馬県へき地教育研究連盟役員	-----	38
IV 令和元年度群馬県へき地教育センター指導員	-----	39
V 令和元年度へき地教育功労者	-----	40

あとがき	-----	41
------	-------	----

第 1 部

へ き 地 教 育 の 振 興



群馬県へき地教育研究大会 開会式



群馬県へき地教育研究大会 班別研究協議

I へき地の学校経営

〈1〉 小学校

課題を追究していく草津っ子の育成

草津町立草津小学校長 丸山 三美

1 学校の概要

本校のある草津町は、群馬県北西部に位置し、草津白根山の麓に広がる日本でも有数の観光地「草津温泉」にある。湯畑を中心とした温泉街に加え、周辺にはスキー場や多くのリゾートホテルがあり、年間350万人以上の観光客を受け入れている観光立町である。一昨年、元白根山の噴火を受け、全町民が危機感と復興・再建への熱意をもって、様々な取組を行い、ますます発展を続けている。

本校は草津温泉の入口、標高1,250mの高冷地にあり、冬季は1m余の積雪に見舞われる。学校敷地内にスキーゲレンデやジャンプ台、クロスカントリーコースを有し、体育授業ではスキー学習を全校で行っている。スキーの指導や記録会の運営に当たっては、国体や世界大会で活躍した草津スキークラブ員をはじめ、草津温泉スキー場関係者、保護者ボランティアの協力を得て充実した活動が行われている。その他にも、20年以上も続くPTAボランティアによる毎週の読み聞かせや、年間12万点以上も集めるベルマーク活動、毎朝の登校時に80名を超す高齢者ボランティアが児童を見守ってくださるなど、地域に大きく支えられて豊かな学びの実践ができています。



校内クロスカントリースキー記録会

2 学校教育目標

「自ら考え、正しく判断し、意欲的に行動できる草津っ子の育成」

- やさしく ・相手の立場に立って考え、行動できる子
- つよく ・正しい判断ができる子
- かしこく ・自分の課題を追究できる子
- すこやかに ・自他の生命を尊重できる子

3 学校経営の方針

「みんなが笑顔で楽しい思い出がいっぱいの学校」

- ・子どもたちがいきいきと学ぶことのできる、安全で楽しい学校
 - ・基礎基本の確実な定着と、心豊かな子供が育ちあう学校
 - ・家庭や地域と連携協力し、豊かな学びのできる開かれた学校
- (1) 授業スタイルの確立と統一で、学習規律・生活習慣の育成と学力の向上を図る。
自ら課題を見つけ自ら学習に取り組む。自分たちだけでもしっかり学習できる。(自学自習)
 - (2) 授業や業務の進め方を見直し、子供と向き合う時間を確保をする。(信頼と安心)
子供を中心に考え、小さなトラブルでも見逃さず、丁寧で親身、迅速な対応を行う。
 - (3) 地域の特性を鑑みながら、本校ならではの教育課程を編成する。(開かれた学校)
学校行事、生活・総合の時間等を見直し、めあてを明確にした行事・学習を実践する。
たくさんの家庭・地域からの支援に感謝し、郷土を愛する心・大切に作る心を育てる。

4 実践の概要

- (1) 草津小授業スタイルの確立と統一に向けて
平成27年のエリアサポート指定事業より、ユニバーサルデザインを取り入れた学習スタイル

に取り組んでいる。具体的には「視覚化・焦点化」。本時の流れやめあてを確認するためホワイトボードや指示カードを用いたり、1時間の学習を振り返ることができる板書計画を作成したりしている。さらには平成30年より新学習指導要領改訂の趣旨である「考え議論する」活動を積極的に取り入れ、根拠を示して説明したり、多角的に考えたりしながら、一人一人の学びが深められるようにしている。全校で統一された授業スタイルの実施により安心して学習に取り組める児童が増えている。



道徳科の授業（1年生）

(2) 子どもと向き合う、一人一人の特性に応じた指導・支援

エリアサポート事業より、全校で特別支援教育や発達障害に関する理解と対応を学んでいる。また、草津町の「育ちと学びのネットワーク事業」により、教育と保健福祉、医療等の連携・協力体制が構築され、専門的なアドバイスや様々な支援が行われている。校内でも、定例の生徒指導・特別支援会議やケース会議、なかよしアンケート、スクールカウンセラー面談の他、心を落ち着けたり、ゆっくり相談できたりする「ほっとる一む」を2教室開設している。友達関係に悩んだり、集団になじめず苦しんだりしている児童の居場所として活用されている。

(3) 草津ならではの教育課程「草津温泉学（仮）」

新学習指導要領の実施に向け、今年度の校内研修では、生活科・総合的な学習の時間に焦点をあて取り組んでいる。これまでも地域学習として各学年とも、町の施設や事業所を見学し掲示物や新聞等でまとめる学習をしてきたが、学年の系統性や学びの連続性が薄いと感じられた。郷土の根幹である「草津温泉」を柱に、草津ならではの自然環境（白根火山、湯畑等湧源泉、芳が平湿地群他）、歴史・文化（源頼朝、徳川献上湯、バルツ博士他）、温泉関連（湯畑、湯もみ、共同浴場、中和工場、融雪道路他）、観光関連（旅館・ホテル、スキー場、土産物店、イベント他）、その他（ハンセン病と栗生楽泉園、障害者福祉他）を、学年ごとの題材として設定し、系統性と発展性を明らかにした。児童は身近な草津温泉を学びながら、類いまれな環境と発展に尽くした人々、そして現在の繁栄を支えている人々の努力に気づき、感謝の心と故郷を愛する心を育てることができると思う。



湯もみ体験（2年生親子）

5 おわりに

新学習指導要領前文に「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会が共有し、（中略）社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、社会に開かれた教育課程の実現」のため、家庭や地域との連携をより深めて行きたいと考える。児童へ地域の大人が教えることはもとより、児童と保護者がともに学ぶ、さらには児童が学んだことを地域の方に広めるなどの相互の活動へと高めていきたい。なぜなら、児童はこれからの故郷「草津温泉」を支えていく人材であるのだから。一人一人が自ら課題を見つけ、深く追究していく力の基礎を小学校教育で身に付けさせていく。

〈2〉 中学校

広い視野をもち、片品の未来を創る生徒の育成

～片品学を核として～

片品村立片品中学校長 雲越 誠司

1 学校の概要

本校は利根郡片品村の中心部、鎌田地区に位置している。昭和22年に開校し、翌23年1月には火災により校舎を失った。しかし村民の教育への思いは強く、その年の11月26日には新校舎が完成した。昭和50年に現在地に移転し、平成31年1月より、新築された木造平屋建ての校舎での生活が始まっている。

校区は広く、4小学校からの卒業児童を受け入れていたが、平成28年に片品小学校1校に統合されたことを機に、スクールバス11台が小中学生の通学に導入され、学校所在地である鎌田地区以外の生徒は、全員これを利用している。

本年度の生徒数88名、学級数4（各学年1学級、特別支援1学級）であり、開校以来初めて二ケタの生徒数となった。

2 学校教育目標

- (1) 基本目標 「豊かな人間性、生きた学力、強い身体」を磨く生徒
- (2) 目指す生徒像 「昨日の自分を超越しようとする生徒」
「主体的に気づき、考え、行動する生徒」

3 学校経営の方針

人口減が続くへき地において、地域の衰退は学校の衰退へとつながる。しかし、ただそれをじっと受け入れるのではなく、学校が将来の地域の発展に向けて種を蒔くことができれば、状況も変わってくるものとする。昨今の社会情勢・地域の実状を考えた時、これからのへき地においては「グローバルに考えローカルに活動する、グローバル人材の育成」が必要であろう。

この考えの下、学校経営方針として「広い視野をもち、片品の未来を創る生徒の育成」を掲げた。そして経営スローガンを、「自分自慢、片中自慢、片品自慢のできる生徒」とした。

「自分自慢」とは、生徒が学力・心力・体力をつける中で自己肯定感をもち、社会に通用する力を身に付けていくことを表したものである。「片中自慢」とは、生徒がお互いを認め合える人間関係をつくる中で自己肯定感を自己有用感へと高め、自分が片品中学校・片品村に必要な人間であることを自覚するとともに、生涯にわたる縦横の人間関係を築いていくことを表したものである。「片品自慢」とは、生徒が地域を知り愛着をもつ中で、自分を地域で活かし、片品の未来を創っていくことを表したものである。

4 実践の概要

本稿においては、主に「片品自慢のできる生徒」の育成のために実践している「片品学」について紹介することとする。

- (1) 「片品学」と「片品博物館」について

片品の自然・歴史・風習・民俗・人物など、全てのものを学習対象とする学びを「片品学」として実践する。そのために片品村全体をまるごと「片品博物館」と想定し、地域の方全員を学芸員、職員を企画・広報係と見立てて、「片品学」実践の場とする。

「片品学」の学習対象は片品村に関するもの全て、「片品学」の学習の場は片品村全体であるため、学校での学びだけには留まっていない。地域の行事の中での学びも、家庭で行われる年中行事での学びも、生徒の日常でのちょっとした気付きも「片品学」の範疇となる。

(2) 「片品学」の広報活動

「片品学」を実践していくに当たり、「片品学」と「片品博物館の考え方」について、広報していく必要があった。まず職員に対しては、最初の職員会議で学校経営方針として説明した。また、生徒・保護者に対しては、校長通信で、「片品学」「片品博物館」の考え方について説明するとともに、具体例として「校長の片品学」を連載している。また、PTA新聞に「片品博物館で片品学を」と題した挨拶文を掲載し、保護者及び祖父母への協力も募った。地域の方に対しては、学校評議員会をはじめとした会議の場で説明させていただいたり、村の文化協会誌等で紹介した。

(3) 学校における「片品学」の実践

本校の総合的な学習の時間では、1年生「片品を知る」、2年生「片品を探る」、3年生「片品を提案する」がテーマになっている。「片品学」の根幹となる部分である。

1年生では、主に村内の文化財等を事前に調べ、実際に巡って学ぶ「村巡り」、そして尾瀬高等学校自然環境科の生徒の指導の下、学校周辺の自然を観察する「中高環境講座」を通して、「片品を知る」こととなる。2年生では、主に片品村にある事業所で仕事を体験する「職業体験学習」、そして尾瀬高生の指導による武尊山での「中高自然観察会」を通して、「片品を探る」こととなる。3年生では、主に至仏山に登る「尾瀬学校」、そして全員が片品村議会で質問を行う「中学生議会」を通して、「片品を提案する」こととなる。

また、「片中文化の日」には「弟子入り講座」を開講し、「料理」や「写真」、「切り絵」など、全7～9講座で片品村のその道の達人たちに教を請うことになっている。

その他、授業にも地域素材を取り入れた実践が行われている。例えば国語では、尾瀬学校で感じた自然を俳句にし、片品村俳句協会の方を講師に迎えて推敲を行い尾瀬俳句大会に投句したり、古典の学習で学んだことを活用して、片品の名所を擬古文で紹介したりしている。また英語では、片品村を訪れた外国人観光客に対しての片品紹介ポスターの作成を通しての学習が行われている。

5 終わりに

「片品学」を創設して、2年目となった。「片品学」創設期である昨年度の4月に実施された全国学力学習状況調査の生徒質問紙項目「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」で、「当てはまる」と答えた生徒の割合は、4.9%（県9.7%・国10.6%）、「どちらかという当てはまる」と答えた生徒の割合は、34.1%（県30.3%・国28.1%）、合計では39.0%（県40.0%・国38.7%）という結果であった。

一年間の実践を経た本年度は、「当てはまる」と答えた生徒の割合は、13.6%（県10.6%・国11.5%）、「どちらかという当てはまる」と答えた生徒の割合は、40.9%（県29.6%・国27.9%）、合計では54.5%（県40.2%・国39.4%）という結果であり、飛躍的な伸びが見られた。

また、本年度の新設項目「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか」で、「当てはまる」と答えた生徒の割合は、40.9%（県26.8%・国25.8%）、「どちらかという当てはまる」と答えた生徒の割合は、27.3%（県34.7%・国33.5%）、合計では68.2%（県61.5%・国59.3%）という結果であった。

これらの結果を見る限り、片品を自慢できる生徒が育ってきている様子がうかがえる。

ある研究によると、「小・中学生のうちに、たくさん地域の人々とかかわったり、自然や文化に触れさせたりしておく」と、「この地域が好きだ」という気持ちが芽生えやすいことや、「15歳までに地域活動への参加に積極的だった人ほど、成人後の地域貢献意識が高く、地域活動へかかわる頻度に関連する」との結果が得られている。今後も「片品学」を継続することにより、地域を知り愛着をもつ中で、自分を地域で活かし、片品の未来を創っていく生徒の育成を目指していきたい。

Ⅱ 学習指導の改善に関する実践的な研究

自分の思いを進んで表現し、 多様な考えを認め合える児童の育成

～道徳科における『考え、議論する』授業づくりを通して～

高崎市立倉渕小学校長 小池 政一

1 主題設定の理由

本校は、榛名山の西の裾野、高崎市の北西部に位置する小学校である。倉渕東小、倉渕中央小、川浦小の3校が統合され、倉渕小となり9年目を迎えた。平成30年4月より旧川浦小跡地に開村した山村留学施設『英語村』の児童14名を受け入れ、今年度の児童数は129名である。

本校では、道徳の時間が教科化されることを好機とし、平成29年度より上記テーマを掲げ、「考え、議論する道徳」の授業改善に取り組んできた。たいへん素直で純朴であるが、自己表現がやや苦手という倉渕の児童の実態と、全国各地より転入してきた英語村の児童の受け入れを考慮し、互いのよさを認めながら高め合える学級・学校集団を創ろうと考え主題を設定した。

2 研究の基本的な考え方

「道徳科における『考え、議論する』授業」を次のように捉えた。「考える」とは、児童が道徳的価値について、主体的に自分との関わりで考えること、また、「議論する」とは、多様な考え方・感じ方と出会い、交流することと捉えた。これらを相互に連動させ、より高い道徳的価値に触れさせ、自己の考えを深めさせたいと考えた。そして、基本的な授業スタイルを以下のように考えた。

- 内容項目に関連する主題（テーマ）を提示し、考えさせたい道徳的価値への方向づけをする。
- 普段の自分の考えや言動についてふり返り、今持っている自分の価値観を認識させる。
- 資料の登場人物の心情の変化を考えさせる発問や、行為の基になった考えを問う発問を設定するとともに、児童の思考を深めるための問い返しを準備する。
- 意見交換の場を設定するとともに、その形態を工夫する（ペア→ グループ→ クラス全体）と広げる。
- 意見交流の際、ネームプレートの活用や板書の工夫により、互いの考え方や感じ方の共通点や相違点を可視化する。

3 研究のねらい

- 児童の考え方・感じ方を引き出す発問を工夫するとともに、考えを揺さぶる問い返しの発問を工夫することで、児童の考えを明確にする。
- 考え方・感じ方について、他者と意見交換することにより、他者の多様な考え方・感じ方に会わせ、自らの考え方・感じ方を深める。
- 表現した自分の思いを教師や友達から認められる経験を積ませることで、自分に自信を持たせ、さらに自分の思いを表現しようとする意欲を高める。

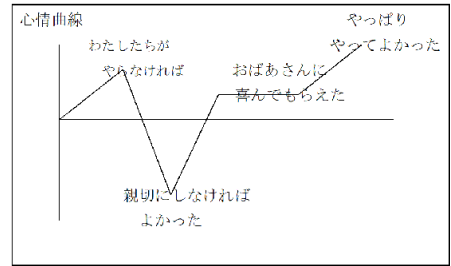
4 授業における具体的手立て －5年「くずれ落ちた段ボール箱」（親切）を例として－

(1) 導入と終末で同じ発問

授業の最初と終末で、「親切にするのはなぜ？」と問う。最初に親切にするわけを問うことで、今持っている児童の価値観を確認し、終末で同じ発問をすることで、親切に対する道徳的価値の深まりを自覚させようとした。

(2) 主人公の心情の変化を捉えさせる心情曲線

主人公の思いがどう変化したのか、資料を読んだ後に、ノートに心情グラフを記入させた。児童は、資料における主人公の心情の変化を曲線グラフに表現することで、主人公の心情の変化の読み取りを明確にすることができた。また、曲線が急激に変化した時の思いを、グラフにメモさせることで、児童は主人公に自分を重ね合わせて考えることができた。



(3) ペア学習から全体へ

主発問に対する児童の考えを、道徳ノートに記述させた後、席の隣の児童（横ペア）や、前後の児童（縦ペア）と互いの考えを述べ合う活動を取り入れた。どの児童も自分の考えを友達に伝えることができ、また、自分と異なる考えや価値観に触れることができた。

(4) ハンドサインを使った意見交流

ペア学習の後、クラス全体で話し合ったが、その際、ハンドサイン（グー：同じ。チョキ：付け足し。パー：反対。）により友達の考えに対する自分の意思を明確にさせた。児童は友達の手サインを確認しながら、児童が次の児童を指名するように促した。自分と同じ意見や付け足しから指名し、その後、異なった意見を指名していった。

(5) ネームプレートによる明示

「もし、手紙が来なかったとしても、次に困っている人を見たとき、親切にできるでしょうか？」の発問に対し、黒板の「できる」～「できない」の位置にネームプレートを貼ることで、自分の思いをはっきりさせた。そして、その位置に貼った理由（根拠）を発表し合った。話し合いでは、「できない」派から意見を発表し、続いて「できる」派がその理由を述べた。教師は「できない」派の、「また嫌な思いをしたくない」という考えにも共感し、人の心には弱さがあることに気付かせるようにした。「できる」派の理由では、相手のことを考えてだけでなく、自分自身も気持ちのいいものだと思わせるようにした。

「もし、手紙がこなかったとしても、次に同じように親切にできるだろうか？」

できる	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> (各自のネーム)
	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> プレートを貼る)
できない	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>

(6) 3つの“こ”を視点とし振り返る

終末において、授業の振り返りとして3つの“こ”（これまでの自分、この授業を通して、これからの自分）を視点として、感想を道徳ノートに記述させた。このことより、児童が授業のねらいに迫れたかを、評価する材料とした。また、本時の授業についての教師自身の評価の材料としても重要と考えた。

5 成果と課題

◎ 成果

- ・ 中心発問を工夫し、書く活動を取り入れたり、心情曲線やネームプレートで自分の考えを可視化することで、児童は自分の考えを明確に表現できるようになった。
- ・ 意見交流の活動で、ペア、グループでの意見交換を必ず取り入れたことにより、他者の考えと自分の考えを比較しながら聞くことができるようになった。
- ・ 道徳ノートにおいて、終末の振り返りの視点を示したことで、授業の振り返りとともに、自己の生活の振り返りができようになってきた。

◎ 課題

- ・ 児童の考えをさらに深めるためには、中心発問の設定をとともに、問い返しのさらなる工夫が必要である。
- ・ 評価に関して、児童の多角的・多面的な思考の看取り方や長期間における児童の見方・考え方の深化についてのとらえ方について、さらに明確に共通理解を図っていく必要がある。

Ⅲ へき地学校における生徒指導の実践

〈1〉小中一貫校

自主的・主体的に行動できる児童生徒の育成

～9年間の成長の支援体制の構築を通して～

沼田市立多那小中学校長 瀧間 京子

1 地域・学校の概要

本校は沼田市の南東に位置し、赤城山北面標高680mの高原にある。多くが農家で高原野菜の栽培が盛んであり、機械化による大規模経営が進んでいる。若い人たちの農業経営に対する関心は高く、農業後継者も安定している。農事研究会、社会体育協会などの組織によって住民の協力体制が整い、人々の社会連帯意識が高い。交通は、市役所まで約11km、大規模農道によって渋川、前橋方面にも通じている。また沼田ICや昭和ICの活用によって前橋・東京方面への直接乗り入れもできる。

開校は明治時代に遡るが、平成17年の市町村合併により沼田市立多那小中学校となり、同22年に沼田市教育委員会から小中一貫校と位置づけられ、現在に至っている。今年度は児童数38名、生徒数27名のへき地校である。児童生徒はみな幼少期からの顔見知りであり、家族的な雰囲気の漂う素直な子どもたちである。保護者や地域の方々も学校に対してとても協力的で、学校行事への参加率も高い。

2 生徒指導の方針

(1) 方針

- ① 小中9年間をみとる視点での子どもの成長につながる積極的生徒指導を展開する。
- ② いじめや不登校、問題行動などの未然防止や早期発見・早期対応に努め、組織的かつ迅速な生徒指導を展開する。
- ③ 信頼関係を基盤にした生徒指導、自己指導能力の育成、児童生徒の一人一人の自立を目指した適時・適切な生徒指導を展開する。

(2) 今年度の努力点

- ① 小中合同の生徒指導委員会を定期的に開催し情報交換を密にとるとともに、『多那いじめ防止推進協議会』を核とした、小中9年間を見通した学年段階に応じた生徒指導を系統的・発展的に行い、問題行動の未然防止や早期発見・早期対応に努める。
- ② 授業中の生徒指導を重視するとともに教育相談を有機的に関連づけ、職員間の共通理解を図り「報告、連絡、相談、確認・記録」を徹底して行い、未然防止や早期解決に向けて組織的な取組に努める。
- ③ 共感的な理解や多面的な理解に努めるとともに、自他のよさを認め合う場面を意図的に取り入れ、児童生徒主体の活動を推進する。

3 実践の概要

(1) 9年間の成長を見守る取組

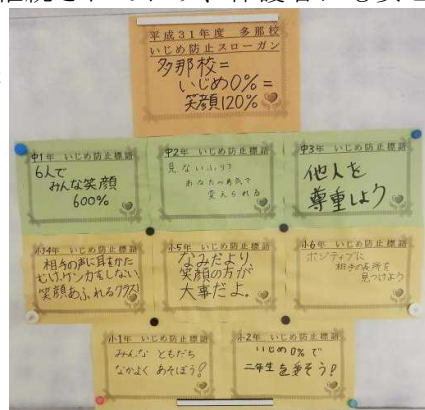
小中一貫校である本校では9年間の学びの連続性や児童生徒の成長を見守るため、「生徒指導委員会」「いじめ防止推進協議会」「SNSルール」設定で小学校と中学校が合同で取り組んでいる。

「小中合同生徒指導委員会」は毎月開かれ、校長・小中教頭・小中生徒指導担当・小中特別支援担当・小中養護教諭が、その構成メンバーである。児童生徒の情報交換の場では、現在起きている事象だけでなくこれまでの成長の過程や背景などについても情報交換がなされ、今後の支援についての策を熱心に意見交換している。また、スクールカウンセラーも小中両方で相

談や支援を行っており、9年間連続した積極的な相談事業が継続されており、保護者にも安心感を与えている。

「多那いじめ防止推進会議」では小学校の企画委員と中学校の生徒会本部役員が合同で、多那校のいじめ防止について取り組んでいる。多那校の今年度のいじめ防止スローガンは『多那校=いじめ0%=笑顔120%』である。このスローガンの元、各学級で話し合っ決めていじめ防止標語を発表し、掲示している。小中全体が同一歩調で取り組むことで、児童生徒のいじめ防止の意識も強まっている。

「SNSルール」の設定についても、小中の接続を意識し、小中各校の「SNSルール」を設定した。小学生の中には、(中学生になると、こういうことも気をつけなくちゃ。)という、自身の先を見通すような発言も見られた。



【多那校いじめ防止スローガンと標語】

(2) 情報共有のための取組

生徒指導については「報告、連絡、相談」が重要であるが、迅速かつ組織的な取組のためには「記録・共有」も、本校では重視している。そこで、日々の些細な指導・支援記録を全職員が目を通せるように、記録メニューを校務支援システムのトップページに配置した。職員はシステムを毎日確認するため、情報交換の時間削減や支援策の早期構築に役立っている。



【小中合同の多那いじめ防止推進会議】

(3) 児童生徒の主体性を育てる取組

児童生徒の(多那校をよくするために)という願いから、小中合同の「あいさつ運動」と「なかよし集会」を行っている。これらは児童生徒の発案で、企画・運営されているものである。「あいさつ運動」は登校時に玄関でハイタッチをしながらあいさつを交わすもので、既に数年間継続されており、多那校の伝統となりつつある。登校方法の関係から中学生が迎えてくれる形となっているが、小学生は中学生にならない、自主的に自分たちの下校時間にも同様の「あいさつ運動」を展開している。「なかよし集会」は小学校の企画委員と中学校の生徒会本部役員が合同で企画・運営する集会である。年3回ほどの開催だが、小中学生がともに楽しみ親睦が深められるような企画を考えている。



【あいさつ運動】

このように児童生徒たちが企画から携わることで、自己有用感を高め、さらに学校や仲間、地域を愛する気持ちの形成につながっている。



【なかよし集会】

4 おわりに

小中併設校であり地域の温かさに育まれてきた本校の最大の課題は、高一ギャップである。誰もが自分を理解してくれる環境から、自らの意志で行動を起こさなければならない環境への変化は、子どもたちにとって劇的な変化でもある。本校での教育は、その変化を予見し、9年間のうちに子どもたちに、自らの意志で未来を切り拓くための土台と多様な引き出しを作ってやることであると考える。今後も、9年間の子ども一人一人の成長に寄り添いながら、自主的・主体的に行動できる児童生徒の育成を目指したい。

〈2〉 中学校

互いに認め合える人間関係を育む生徒指導の推進

神流町立中里中学校長 大倉 猛

1 地域・学校の概要

本校がある神流町は群馬県の南西部に位置し、上信越自動車道藤岡インターから神流川を遡ること1時間あまり、奥多野の深い山々と清流に囲まれた小さな町で、周囲には1,000 m級のいわゆる西上州の山々が連なっている。そのため、平坦地が少なく、農地は急峻な地形を活用した段々畑が多くあり、水田はまったくない。河川は、町の中央部を西から東へ神流川の清流が流れ、数多くの支流が神流川へと注いでいる。

平成15年4月に万場町と中里村が合併して「神流町」となり、本校も平成16年4月に万場中学校と中里中学校を統合し開校した。現在は、全校生徒17名の小さな学校である。地域、保護者を始め町も学校に対して大変協力的であり、生徒たちも大変礼儀正しく何事にも真面目に様々な教育活動に取り組んでいる。

2 本年度の生徒指導の方針

本校の学校教育目標は、「ふるさとに誇りをもち、故郷で志を果たそうとする生徒の育成」であり、具体目標は「自立・貢献」である。また、「自立・貢献」できる生徒を育成するための「3つの『S』」を経営方針としており、この「3つの『S』」を核にして、積極的な生徒指導を様々な場面で充実させることで、互いに認め合える人間関係を育てていく。

(1) 「3つの『S』」とは

- 学ぶ意欲の向上 (Study)
- 潤いのある豊かな心 (Smile)
- 体力・気力の向上 (Strong)

(2) 本年度の生徒指導の重点

- 積極的な生徒理解に努め、生徒一人一人のよさや可能性を見出し伸ばせるような温かい学級経営を充実させる。(生徒指導の3機能を生かして)
- 授業の中で一人一人が生き、よさを認められるような授業実践に努める。
- 問題行動を起こす生徒への適切な対応策を工夫し、個に応じた組織的・継続的な指導援助の充実に努める。
- 家庭・地域社会、関係機関等と緊密な連携を図り、地域ぐるみによる生徒指導の充実に努める。

3 具体的な取組

(1) 「学ぶ意欲の向上 (Study)」における取組

○ 授業における実践

ア 3年英語科 単元名「LESSON 3 “Rakugo Goes Overseas” GET Part 2」

本校の3年生は夏季休業中にオーストラリアに研修旅行に行っている。そこで、どんな日本の文化を伝えたいかを考えさせ、その際使う表現を身に付けさせるために「Walking BINGO」を行った。生徒たちは、オーストラリアの生徒たちに伝えたいことを、興味関心をもって考えるとともに、仲間の意見を十分に聞きながら、伸び伸びと活動を行っていた。自分が考えた伝えたい日本の文化を友達に称賛されたことで、自分の意見に自信をもつとともに、学ぶ意欲の向上につながった。



「Walking BINGO」を行う3年生

イ 2年理科 単元名「化学変化と物質の質量」

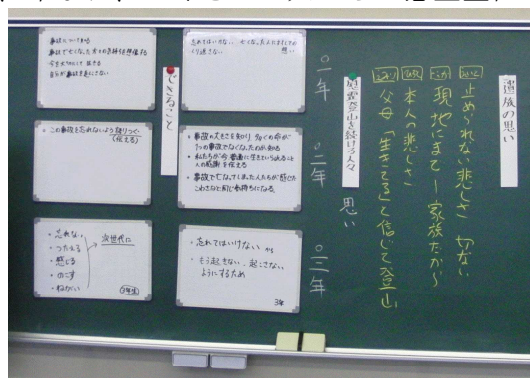
化学変化の前後で質量が変化するかを予想し、ホワイトボードを使い、予想の根拠を明確にして、他の生徒に説明することを課題とした。生徒たちは、ホワイトボードと磁石を使いながら、一生懸命考え、わかりやすく説明していた。ホワイトボードと磁石を使ったこと、事前に既習事項を復習しておいたことで、生徒間で活発な意見交流ができ、互いに認め合うことができるとともに、意欲的に学習に取り組むことができた。

(2) 「潤いのある豊かな心 (S m i l e)」における取組

○ 道徳科における実践

全校道徳 教材名「御巣鷹の尾根慰霊登山に向けて」

本授業は、全校道徳として行った。生徒たちは、今なお、たくさんの人たちが慰霊登山を行っているのはどんな気持ちからかを考えた後、現場の隣町である神流町に住んでいる人として、自分との関わりについても考えた。それぞれの班ごとに各学年の生徒を配置したため、成長過程に応じた様々な意見が発表された。そんな中、隣町に住んでいるからこそ伝えていかなければならないこと、やらなくてはならないこと等についての意見発表があった。学年を超えた話し合いを行うことで率直な意見を聞くことができ、内容について深く考えることができた。



各学年の生徒が考えた意見 (思い)

○ 生徒集会における実践

生徒集会 「ピアサポート活動」

業前の時間を使って、生徒会の役員を中心に「ピアサポート活動」を行った。「バースデーチェーン」「ブレインストーミング」の活動を通して、コミュニケーションの大切さを学ぶことができた。また、教師と生徒と一緒に活動し、いろいろな考えを話したり聞いたりすることで、コミュニケーションは目と目、手振り身振りでもとれること、たくさんの人とアイデアを出し合うことで考えが広がることを実感することができた。

(3) 「体力・気力の向上 (S t r o n g)」における取組

○ 体育科における実践

全校体育 「体育祭練習」「校内マラソン」

本校は、週に1時間、全校体育の時間を設け活動している。特に、神流町体育祭の前は全員リレーや障害物リレーの作戦を練ったり、バトンパスの練習をしたりしている。また、校内マラソン大会の前などは、学年の枠を超えて一緒に練習したりライバル意識をもったりしている。生徒たちは、お互い競い合ったり、考えを共有したりしながら人間関係を深めるとともに、体力・気力の向上を図っている。



持久走の練習をする生徒たち

4 おわりに

本年4月に行った教員向けの「本校生徒の課題」アンケートに、「一人で抱え込まず、人に相談したり頼ったりすることができるようにする」、「生徒同士が良いところや頑張りを見つけ合えるようにする」との意見があった。少人数小規模校の本校にも、大規模校と同じ課題が見受けられる。今後も様々な教育活動を通して、生徒一人一人の良さをさらに引き出し、円滑な人間関係の中で充実した毎日を送れるよう、組織的に生徒指導に取り組んでいきたいと思う。また、学校に非常に協力的であるという地域の力を生かした取組にも積極的に取り組んでいきたい。

第 2 部

へき地学校教員研修のあゆみ



群馬県へき地教育研究大会 片品小学校



群馬県へき地教育研究大会 片品中学校

へき地学校教員研修の様子



群馬県へき地教育研究大会
授業研究会

I 令和元年度へき地学校教員研修の概要

群馬県へき地教育研究連盟研究部長

沼田市立多那小中学校長 **瀧間 京子**

1 令和元年度へき地学校

令和元年度の県内へき地学校は、昨年度とかわりなく加盟校 32 校で、県内全体の 6.8%である。昨年度に比べ、児童生徒数は 124 名減で 2466 名、教職員数は 4 名増で 412 名である。へき地学校の児童生徒の占める割合は、県内全体の小学校・中学校とも 1.7%となった。

県へき地教育研究連盟としては、へき地の学校の小規模の利点や、地域との密接な連携を生かすとともに、子供たちに少人数であっても、物怖じしない「たくましく生きる力」を身につける教育を推進してきた。

2 活動方針

- (1) 研究主題 「ふるさとに夢や誇りをもって、未来の創り手となる子どもの育成」
～へき地・複式・小規模校の特性を生かした
学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして～
- (2) 活動方針
 - ① 本連盟は、群馬県教育委員会、市町村教育委員会、へき地教育振興会等と連携を密にし、へき地教育の充実・発展に努める。
 - ② 本連盟に総務・調査・研究部を置き、広報活動・研究事業の推進、研究成果の収録・発行等を実施する。
 - ③ 本連盟は諸活動を通して、へき地学校教職員の連帯や親睦、指導力の向上、教育の諸条件改善等に努め、へき地教育の一層の充実を図る。
- (3) 活動内容
 - ① へき地関係教育諸情報の伝達及びへき地教育についての理解を深めるため、広報「県へき連」を発行する。
 - ② へき地教育研究大会を、群馬県教育委員会及び群馬県へき地教育振興会と共同開催し、へき地学校における経営・指導上の諸課題について研究協議し、へき地教育の充実・振興に資するとともに、へき地学校教員の指導力の向上を図る。
 - ③ 群馬県教育委員会及び群馬県へき地教育振興会と連携・協力し、へき地教育の諸課題と研究実践を収録した「板木」を継続発行し、へき地教育の充実と発展に努める。

3 研究・研修の概要

- (1) 第 68 回全国へき地教育研究大会長野大会、10 月 10 日（木）・11 日（金）、群馬から 19 名参加、長野県（1 日目：上田市サントミューゼ 2 日目：長野県内 10 地区 8 会場）
- (2) 第 68 回群馬県へき地教育研究大会、11 月 8 日（金）、Cブロック（片品）で開催、片品村立片品中学校・片品村立片品小学校を会場に 68 名参加。
- (3) 全国へき地教育研究連盟第 45 回研究推進協議会、11 月 21 日（木）・22 日（金）、国立オリンピック記念青少年総合センター、研究部長参加。
- (4) 広報「県へき連」第 86、87 号発行
- (5) 群馬県へき地教育研究資料「板木」第 68 集発行

II 第 68 回群馬県へき地教育研究大会

〈1〉概要

群馬県へき地教育研究連盟研究部長

沼田市立多那小中学校長 **瀧間 京子**

- 1 **趣 旨** へき地学校の経営実践や授業実践についての研究協議を通して、群馬県へき地教育の改善・充実に資する。
- 2 **テーマ** 「ふるさとに夢や誇りをもって、未来の創り手となる子どもの育成」
～へき地・複式・小規模校の特性を生かした
学校・学級経営と学習指導の深化・充実にめざして～
- 3 **期 日** 令和元年 11 月 8 日（金）
- 4 **会 場** 片品村立片品中学校（全体会）
片品村立片品小学校・片品村立片品中学校（公開授業）
- 5 **日 程**

13:35(小)

9:00 9:50 10:20 10:40 10:50 12:00 12:45 13:30(中) 14:20 14:40 16:00

午前 受付	開会行事	全体会	移 動	班別研究協議	昼食 休憩	午後 受付	公開授業	移 動	授業研究会
----------	------	-----	--------	--------	----------	----------	------	--------	-------

- 6 **全体会** 全へき連、関へき連、県へき連報告確認等 県へき連理事長 松本 聡

7 班別研究協議

- (1) 提 案 <小学校班> 長野原町立北軽井沢小学校長 山野 悟
<中学校班> 神流町立中里中学校長 大倉 猛

(2) 研究協議

班	司 会	記 録	世話係	指導助言	会 場
小学校	尾澤 順子 (坂上小校長)	山本 徳幸 (西部小校長)	篠原 彰仁 (東部小校長)	吾妻教育事務所 木村指導主事	1 階多目的室
中学校	荻原 孝英 (上野中校長)	山崎 英俊 (松井田北中校長)	久保 俊明 (南牧中校長)	西部教育事務所 大河原指導主事	英語教室

8 公開授業ならびに授業研究会

(1) 公開授業

小学校：片品村立片品小学校 中学校：片品村立片品中学校

学年	教科	単元・題材名	指導者	会 場
5 年	体育	タグラグビー（ゴール型ゲーム）	井上 幸大	体育館
2 年	道徳	「ライバル」（主題名 真の友情） 内容項目 B-（8）友情 信頼	松井 雅之	2 年教室
3 年	理科	地球と私たちの未来のために	篠澤 敦子 松井 透(尾瀬高教諭)	理科室

(2) 授業研究会

学年	教科	司 会	記 録	指 導 助 言 者	会 場
小学 5 年	体育	林 徹志 (大河原小校長)	新井 宏樹 (片品小教諭)	利根教育事務所 野原指導主事	尾瀬ルーム
中学 2 年	道徳	石井 恵子 (藤原中校長)	笹口 佳津衣 (片品中教諭)	利根教育事務所 吉野指導主事	教科学習室
中学 3 年	理科	諸田 義行 (利根中校長)	倉澤 秀祥 (片品中教諭)	西部教育事務所 大河原指導主事	理科室

〈2〉 提案趣旨

《小学校班》

「生きがいにつながるスポーツに向けたオリ・パラ推進教育」

～地域の特徴を活かして～

長野原町立北軽井沢小学校校長 山野 悟

1 学校の概要

本校は、浅間山北麓ジオパークに指定された一帯にあり、標高千メートルを越える高原にあり、気温は、夏でも朝は10度程度、冬は氷点下20度に達する。そのため、昭和初期から避暑地として開発され、本校校歌を作詞した谷川俊太郎氏の別荘もある。そして、戦後は満州からの引き揚げ者を中心に開拓が進んだ。現在は酪農と高原野菜の栽培が盛んだが、学校教育目標のひとつ「よく働く浅間っ子」が、その歴史を語り継いでいる。百名に満たない小規模校で、校地内のスケートリンクを冬季の体力づくりの場、学校と保護者との協働の場として活用している。

2 実践の概要

(1) 主題設定の理由

2020年に迫った日本で開催予定のオリンピック・パラリンピックへの関心を高め、スポーツのもつ価値の理解と、一層の普及を図るために、2018、2019年とオリンピック・パラリンピック教育推進校として県から指定をいただいた。それを契機に教育課程を「オリ・パラ推進」という視点で見通すことで、本校教育課程の硬直化を防ぎ、日頃の教育活動を主体とした無理や無駄のない事業の計画や運営を心がけた。

(2) 実践の内容

① 学校と家庭との協働の場としてのスケートリンク

本校は、冬季間の体力づくりのために以前からスケートを体育の授業で採り入れ、プールの開放と同様に、放課後や冬季休業中のリンク開放をしている。そのためには、滑走によってできる氷の表面の凹凸をできるだけ小さくして滑りやすくする管理作業が必要である。夕方の散水作業、降雪時の雪かきなど保護者と教職員が当番表を作成し、交代で行っている。氷点下で過酷な作業をともにすることで、家庭と学校との信頼関係が深まる。

② 冬季の体力づくりとしてのスピードスケート

牛は生まれ落ちた直後、足元もおぼつかないうちから必死に歩こうとするが、その姿は、スケート靴を初めて履いた子供たちそのものである。脚力がつき、バランスをとるのに慣れてくると、リンク上にはたちまち笑顔と歓声があふれる。また、上級生は下級生に靴を履くことから始め、滑り方まで世話をする様子が、毎年のリンクの傍らで繰り返されている。本校では冬季の体力づくりだけではなく、思いやる心、やり抜こうとする意志を育むきっかけがスケートである。

③ オリンピアンによる講演会・実技講習会

昨年度の六月には、孺恋高校を国内有数の強豪校に育て、現在では高崎健康福祉大学教授として指導にあたっている入澤先生に「諦めないことの大切さ」についてお話していただいた。先生は管内の応桑小学校、西中学校の出身であることから、両校も参加しての講演会であった。併せて、自身もオリンピックに出場し、現在は高崎健康福祉大学で管理栄養士の資格取得を目指している小原氏に「オリンピック選手になるための望ましい食生活」について講演をしていただいた。競技を引退し、第二の人生で生きがいをもって送っている姿は、子供たちが将来の生き方を考えるきっかけになった。

冬季には、銀メダリストの黒岩敏幸氏をはじめ、孺恋村在住の三人のオリンピックに実技指導をしていただいた。また、元孺恋高校校長で教諭時代はスケート部顧問として多くの選手を指導した熊川先生に、メディアでも語られることになかったオリンピックたちの高校時

代の努力の様子を聞かせていただいた。実技指導の内容は、体育の授業はもちろん、放課後のスケート教室で具体の指導法に悩んでいた本校職員にとって、貴重な研修の機会となった。このように、実技ができない時期には講演を通して児童のスケートへの意欲付けを高める工夫をしている。

今年度の六月には、スキー複合競技でオリンピック二連覇をした草津町出身の荻原健司氏に講演をいただいた。「オリンピックの五輪が交わっているのは、スポーツを通して世界平和を目指すことであり、単に競技で勝利するだけが目的ではない。」ことなどを、自らの生い立ちも含めながらわかりやすく話していただいた。

④ パラアスリートとの交流

昨年度、今年度とパラ陸上とパラ水泳の選手と一緒に走ったり、泳いだりできる機会を設定した。どちらも最も基本的な運動であり、パラスポーツ選手の体の動きや努力が児童にストレートに伝わると考えたからである。昨年度の二月には、パラリンピック出場を目指している陸上の池田選手と、義肢装具士の沖野氏を招いての講演会を実施した。義肢の装着体験や、パラ選手の体に触れたり、一緒に走ったりしながら「障害は不便だけれど、不幸ではない」「足がなければ義足を使うのは、視力が低ければ眼鏡を使うのと同じ」という池田選手の言葉に、障害者はかわいそうという視点ではなく、障害者と健常者が互いに支援をし合う共生社会の実現について子供たちは考えを深めたようである。

今年度の六月には、パラ水泳の尾高選手、奈良選手、柴田コーチと一緒に泳いでいただいたり、視覚障害者用のタッピング棒を使った水泳体験をさせていただいたりした。昨年度のパラアスリートとの交流体験から、気負うこともなくふれあえていた。北軽井沢には高原野菜収穫に従事している外国籍の人間も多く在住しており、これらのパラリンピアンとの交流は異文化共生にも結びついていくことが期待できる。

⑤ 教育課程との関連

講演会や交流会などのイベント前後での指導も重要である。スケートのシーズン直前には学校朝礼で、「どうしてスケートが氷上を滑るのか」を低学年にもわかりやすく説明をしたり、縦割の団活動での遊びを通してルールの大切さに気付かせたりした。また、体育の授業では、「よーい どん」を英語で表現して、国際レースの雰囲気疑似体験させ、道徳や特別活動でイベントでの感動を想起させるなども行った。特に道徳ではJOCのサイトにある資料を基に、特活では各校に配付されている資料の中から「パラ選手を学校に講演活動で呼ぶとしたら」を選ぶなど、既にあるものを活用する工夫をして、教職員の負担感軽減を図った。そのために、教育活動を「オリ・パラ」というフィルターを通して俯瞰し、見通しをもった実践を心がけた。

⑥ 生涯学習としてのスポーツ

生涯に渡ってからだを動かす楽しさは、自身の生きがいにもつながる。生きがいを持ち続けることは自らの存在を自らが確認し、自己有用感を育むことにつながる。そして、今年度のイベントごとの児童アンケートの様子からは、児童がオリンピックやパラリンピアンを通して、自分から積極的に働きかけようとする意識が高まってきたことがうかがえる。その積極的な姿勢は、さらに、新たな意欲や生きがいに結びついていくため、それらが相互作用するなかでスポーツをすることが、やがて子供たちの生きがい探しに発展していくことが期待できる。

3 まとめと今後の課題

教科や学年の枠を越えた複合的な視点に基づく計画の立案や見直しの共有を図ることは、たとえばひとつの包丁でいろいろな素材を切って調理することに似ている。献立作成を目指して包丁を共有して野菜や肉、魚を切っていくからである。講師を招聘する場合など、人選や日程調整等の全てを学校が単独で負担することはかなりの困難である。連絡調整等を司る機関として群馬県教育委員会健康体育課にとってもお世話になった。

《中学校班》

生徒の主体性を育てる取組

～ 小規模校の強みを生かした授業と諸行事における生徒主体の活動を通して ～

神流町立中里中学校長 大倉 猛

1 地域・学校の概要

本校がある神流町は群馬県の南西部に位置し、上信越自動車道藤岡インターから神流川を遡ること1時間あまり、奥多野の深い山々と清流に囲まれた小さな町で、周囲には1,000m級のいわゆる西上州の山々が連なっている。そのため、平坦地が少なく、農地は急峻な地形を活用した段々畑が多くあり、水田はまったくない。河川は、町の中央部を西から東へ神流川の清流が流れ、数多くの支流が神流川へと注いでいる。

平成15年4月に万場町と中里村が合併して「神流町」となり、本校も平成16年4月に万場中学校と中里中学校を統合し開校した。現在は、全校生徒17名の小さな学校である。地域、保護者を始め町も学校に対して大変協力的であり、生徒たちも大変礼儀正しく何事にも真面目に様々な教育活動に取り組んでいる。

2 実践の概要

(1) 主題設定の理由

へき地小規模校と言われる本校は、生徒が素直で何事にも一生懸命頑張るといふ長所がある。しかし、その反面自分の主張を表現することや他人の意見に反論することが極めて苦手である。また、非常に熱心な教員が多いためややもすれば、生徒主体の活動にしなければならない授業の学び合い活動や諸行事などにおいて、必要以上に支援してしまっているという状況が見受けられた。そこで、生徒の主体性を育てるために、小規模校の強みを生かした授業と諸行事における生徒主体の活動を意図的に取り入れることで、生徒の主体性を育てたいと考えた。

(2) 実践の内容

① 授業における実践

今年度、まず行ったことは「主体的に学習できる生徒」の定義付けである。研修主任を中心に全職員で協議した結果、

- ・課題に対して生徒自身が興味・関心をもてる生徒
- ・目的達成のために自主的・自発的に取り組むことができる生徒
- ・自分の学びを認識しながら次（の課題，キャリア）につなげることができる生徒

と定義した。また、小規模校の強みを生かすため、全員が考え、全員が発表できるような課題や形態を工夫したり、全員の思考をさらに深めるための課題について全員で議論（第2議論）する場を設定したりするようにした。

課題に対して生徒自身が興味・関心をもてるようにするための授業実践

○ 実践事例（国語科）

単元名「『あゝのころフリードリヒがいた』 作品からポップを作ろう」

物語文を深く読み取るために、学校の課題である図書室の利用者を増やすことをねらいとして、作品のポップを作るという課題に取り組んだ。その際、小規模校である強みを生かして、学級の生徒全員で黒板の前に集まり、どのように学習していけば良いかという学習計画作りを行った。物語を読む目的がはっきりしていること、自分たちで学習計画を立てたことで、生徒たちは興味・関心をもち、自分のこととして熱心に学習に取り組むことができた。

目的達成のために自主的・自発的に取り組むことができるようにするための授業実践

○ 実践事例（社会科）

単元名「二度の世界大戦と日本 ―アジアと太平洋に広がる戦線―」

「どうしたら戦争を防げたか」について考えることをめあてとし、その際、前時まで日本が戦争へと突き進んでいった理由を付箋に書かせておいた。その付箋をもとに、図式化しながら考え、伝え合い、国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であることに気付かせた。生徒たちは、自分たちが書いた付箋を基に図式化したので、自主的・自発的に学習に取り組むとともに、他の生徒の意見を積極的に聞き、付箋を動かしながら学び合うことができた。

自分の学びを認識しながら次につなげることができるようにするための授業実践

○ 実践事例1（数学科）

単元名「文字と式」

「振り返りの時間」を大切にし、既習事項を本時に生かすために、授業開始時にホワイトボードを使って、前時に学習したことを、お互いに説明し合う時間を取り入れている。生徒は自分の言葉で説明し、相手からの質問やよく分かったことをその場で伝えられるため、自分の理解が深まるとともに既習事項を使って、本時の課題に取り組むことができている。数学では、毎時間この時間を取り入れ、本時の課題につなげるようにしている。

○ 実践事例2（国語科）

単元名「『夢を跳ぶ』 自分の関心をもった テーマで調べ、発表しよう」

生徒たちは、作品を読み、自分が感心をもったことについてテーマを決め、一人一人が発表する活動を行った。その際、生徒の理解をさらに深めるために、筆者が実際に活動している映像を用意し、それを鑑賞させた後で、文章から読み取れたことや疑問に思ったことについて、さらに深く考えられたこと、疑問を解消するのに役だったこと等を意見交流した。この意見交流を「第2議論」と位置付け、生徒全員の理解が深まるよう自由に意見交流を行わせることができた。

② 諸行事における実践

○ 実践事例「生徒総会」

本校では、生徒の主体性を引き出すために、生徒総会の質疑応答の時間を大切にしている。小規模校の強みを生かし、生徒全員が生徒総会の場で、質問をする場を設け、活動計画や予算の執行について、自分のこととして考えられるようにしている。今年度は、以下のことが主な質問としてあった。

・予備費は使われることがあるのか。また、使われない場合はどうなるのか？

・「人のために考えて行動する」とあるが、具体的にはどのように行動するのか？

全校生徒が主体的に考え、生徒会本部役員、各委員長、各部の部長が丁寧に答えることを通して、自分たちの意見によって生徒会が運営されていると実感できる総会になった。

3 まとめと今後の課題

(1) 成果

- ① 各教科の学び合いの場において、教師に支援を仰ぐ回数が減ってきており、生徒同士で解決しようとするようになってきた。
- ② 1学期の終わりに行った学校評価アンケートにおいて、「主体的に学習に取り組んでいる生徒」が100%（17人中17人）だった。また、生徒の挙手による意識調査において、「各行事に主体的に取り組んだ生徒」が88%（17人中15人）だった。

(2) 課題

- ① 各教科で様々な取組を行っているが、「振り返りの時間」や『第2議論』の充実には至っていない。今後、各教科で共通して実践できる指導過程を工夫していきたい。
- ② 各行事において、何を生徒に任せるかではなく、何を教師が支援するかの視点で取り組んでいきたい。

〈3〉公開授業・授業研究会

《片品村立片品小学校》

1 研究主題

自分の考えをもち、表現できる児童の育成
 ～考えを伝え合う活動を大切にした授業づくりを通して～

2 授業公開及び成果と課題

(1) 第5学年(体育) 指導者 井上 幸大

授業の視点

ICT・作戦ボード・作戦シート等を用いたことは、短時間で効率的に、自分たちの動きを基に話し合うために有効であったか。

〈单元名〉 タグラグビー Eボール運動(ゴール型)

〈本時のねらい〉 チームの課題を活かした作戦を立て、楽しく試合をすることができる。

〈展開〉

学習活動	時間	学習の支援及び留意点					
1 挨拶・準備運動をする ・ドリルゲームを行う。 金魚ランニング ギャラドスパス 1対1のトライゲーム	8	○けがをしないように、体の各部位をしっかりと動かせるような準備運動を、チームリーダーを中心に行わせる。 ○今までの既習技能のポイントの確認をする。 ○グループで三角ランニングパスやギャラドスパス ・1対1のトライゲームをさせる。 ・早くパスを回せるように声をかける。					
めあて「チームに合った作戦を考えて、試合を楽しもう！」							
2 本時の学習課題・チームの課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> ○ゲームを始める前に作戦を考えさせる。 </div>		○前時のチームで考えた作戦が、試合で上手くいったかをICTや作戦ボードを用いて考えさせる。 ○タブレット端末(以下「端末」)や作戦ボードを用いて前時までの動きを確認し、チームに合った本時の作戦を決定させる。 ○作戦に対しての練習ができていないチームに対しては、練習の仕方を提示する。					
3 タスクゲームをする。 ○作戦のための練習をする。 4 チーム内で攻守に分かれて3対2のトライ対決を行う。 前半3分 後半3分 <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"> <table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 20px; height: 20px;">●</td> <td style="width: 20px; height: 20px;">●</td> <td style="width: 20px; height: 20px;">●</td> <td style="width: 20px; height: 20px;">○</td> <td style="width: 20px; height: 20px;">○</td> </tr> </table> </div>	●	●	●	○	○	12	○1名余りが出るため、交代で練習ゲームを行えるように指示を出す。 ○端末や作戦ボードを使い、自分たちの動きを確認する。 ○良い動きができたときは称賛し、失敗したときは「ドンマイ」など、励まし合いや教え合いなど「○○あい」を大切にした言葉かけができるように促す。 ○コートを広く使う、タグを取られるまで前進する、連携
●	●	●	○	○			



<p>5 メインゲームを行う。 ○全3試合 攻守交代（2分）</p> 	<p>したパスやできるように促し、できている児童には積極的に称賛する。</p> <p>○運動量確保のために、4つのコートで試合をおこなう。</p> <p>○3試合行うが、事前に試合場所をリーダーに伝え、移動時間を短くする。</p> <p>○3対2のアウトナンバーでの試合なので、あまりの一人が攻撃側の端末でビデオを撮影する。</p> <p>○次の試合が始まる前に、端末を見て自分たちの動きを確認しながら試合の振り返りをチームごとにさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【評価】 思 自分のチームの課題に合った作戦を選択している。</p> <p>【活動の様子】【作戦ボード】</p> </div>
<p>6 本時の振り返り活動をする。</p> 	<p>5</p> <p>○端末を活用しながら、チームで考えた作戦が試合で上手くいったかを話合わせる。</p> <p>○ただ話し合わせるだけでなく、なぜ成功したのか、なぜ失敗したのかを振りかえさせることで次時につなげる。</p> <p>○学習カードに本時の頑張ったこと良かったことを記入させる。</p>

〈成果〉

- 4コートで試合を行ったことは、一人一人の運動量を確保することにつながった。
- ドリルゲームータスクゲームーメインゲームという授業の組み立てを継続して行うことで、児童が主体的に学ぶことができていた。
- ドリルゲームでチームごとに考え練習させることで、チームの技能向上につながった。
- 作戦を考える際に、作戦ボードを使ったことはチームごとに動きを考えたり作戦の確認や話し合いを活発にしたりするのに有効だった。
- メインゲームでアウトナンバーのゲームを取り入れたことで、どのチームもトライを決めることができる喜びや協力することの大切さ、作戦の大切さを味わうことができた。

〈課題〉

- 話し合いの時間設定が短く、児童により深く考えさせることができなかった。
- 端末の活用の仕方。（1,撮り方 2,どのように端末を使うのかの指導が重要）
- 毎回機械的に端末でチームの動きを撮影していたため、的確なアドバイスができなかった。使う目的や場面を決めて行えると良かった。
- 話し合いの時間が短く、撮った端末の動画を見ることができなかったため、自分のチームの動きの確認ができなかった。

《片品村立片品中学校》

1 研究主題

自己と向き合い、他者との関わりを大切にできる生徒の育成
～問題解決的な学習過程を踏まえた道徳科の実践を通して～

2 授業公開及び成果と課題



(1) 第2学年(道徳) 指導者 松井 雅之

〈教材名〉 ライバル

〈本時のねらい〉 悩みや葛藤を経験していく啓介と康夫の行為や心を考えることを通して、心から信頼できる友達をもち、互いに認め高め合おうとする態度を育てる。

〈展開〉

過程	時間	○学習活動 ・予想される生徒の反応	・学習活動への支援・留意点
導入	5分	<p>○「友達」についてのアンケート結果を振り返る。</p> <p>○アニメのキャラクターやスポーツ選手の写真を提示し、「ライバル」とはどんな関係か考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲が悪い ・競争相手 ・衝突することもあるけど、いざという時は協力できる。 <p>○めあてを提示する。</p> 	<p>・本時の内容についての関心が高まるように、キャラクターやスポーツ選手（平野美宇と伊藤美誠）などの関係について考えさせる。</p>
		めあて 真の友情とはどのような関係だろうか。	
展開	35分	<p>○ p 113までの範読を聞き、啓介の立場になって考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・康夫君が心配だけど、お見舞いに行きにくい。 ・康夫君が入院しているから優勝を狙える。 ・僕が喜んでいるって思われないうらやまがあるだろうか。 	<p>・教材を分割して範読する。</p> <p>・勝てない相手が出場できないことに対しての本音を引き出す。</p>
		<p>○ p 114までの範読を聞き、康夫の立場になって考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病気の姿を見られたくない。 ・僕の気持ちなんてわからないくせに。 ・顔を合わせたくない。 	<p>・相手のことを考えずに態度に出してしまったり、言ってしまうことは誰にでもあることを理解させる。</p>
		啓介君に手紙を書こうと決心した康夫君は、啓介君が自分にとってどんな存在だと気付いたのだろうか。	
		<p>○個人で考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜあんな態度をとってしまったのだろうか。 ・自分の気持ちを素直に啓介君に伝えよう。 ・啓介君がいたから、自分も力を付けてこれた。 	<p>・啓介君がお見舞いに来た時の康夫君の気持ちを確認する。</p> 

		<p>○三、四人のグループになり、考えを共有する。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間巡視でどんな意見が出ているかを確認し、発表してもらう生徒を選ぶ。 
		<p>○三人程度指名して、全体で確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>康夫君からの手紙を受け取った啓介君はどんな内容の返事を書いたのだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・病気が治ったら、また一緒に頑張ろう。 ・いつまでも競い合える関係でいよう。 ・康夫君が戻ってくる日を楽しみにしている。 <hr/> <p>○今後の二人の関係について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いに高め合える関係。 ・思いやりをもてる。 ・お互いに励まし合い、どんなことが起きても一緒に頑張っていける。 ・自分の弱さや苦しみを正直に打ち明けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間巡視でどんな意見が出ているかを確認し、発表してもらう生徒を選ぶ。
<p>終 末</p>	<p>10 分</p>	<p>○これまでの友達関係を振り返り、真の友情を築くためにこれからの自分はどうか考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しいことをともに過ごしてだけでなく、本音を言い合えるようにしたい。 ・お互いのことを考え、弱い部分を認めつつ、励まし合っていけるようにしたい。 ・苦しいときでも励まし合って、高め合っていける関係をつくりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板左側に板書した授業の最初に確認した「友達」との違いを比較させて、これまでの友達への接し方やこれからどんな関係を作っていきたいかを考えさせる。 

〈成果〉

- ライバルについて考えるときに、生徒たちが知っているキャラクターを使うことで興味を高められた。
- 登場人物の板書を上下に分けたことで、心の変化の様子がわかりやすくまとめられていた。
- グループでの意見交換をしたことで、書くことに悩んでいる生徒は友達の発言をヒントに考えを書くことができた。
- アンケート結果を掲示したことで、最後に学習したことと比べられたことが良かった。

〈課題〉

- 資料の内容をどうすれば深く読み込めるか。
- 反対意見などがグループの中で出てきて葛藤できれば、道徳的価値が深まったのではないか。
- 話し合いや意見を深められる切り返しの発問があると良かった。

(2) 第3学年(理科) 指導者 篠澤 敦子(片品中学校)・松井 透(尾瀬高校)


〈单元名〉 「地球と私たちの未来のために」～「自然の中の生物」

〈本時のねらい〉

植物(ブナ)と動物(ネズミ)の数量を実際に調査したデータをもとに、一時的に植物(ブナ)や動物(ネズミ)の増減があっても、いつしか数量は一定に保たれることがわかり、尾瀬の熊はそのまま増え続けられないことを推測することができる。

〈展開〉(★努力を要する生徒・☆おおむね満足できる生徒)

過程	時間	学習活動 予想される生徒の反応	学習活動への支援・留意点 (T ₁ :□・T ₂ :◇) 生徒への支援 (T ₁ :□・T ₂ :◇)
課題提示	7分	○前時の復習をする。	□:前時に学習した「生態系・食物連鎖・食物網など」の用語や、生態ピラミッド「生態系では食物連鎖があり、いっばんに食べる生物よりも食べられる生物の方が数量が多い」ことを確認する。 □: T ₁ の当日の話や、ガイドさんの「今年は熊の目撃情報が多く、子熊が多い。」という話をし、本時への関心を高め、見通しをもたせる。
		○尾瀬学校での、突然のコース変更を思い出し、本時の授業の見通しをもつ。	
課題解決	15分 10分	○本時の課題を把握する。 	□:尾瀬高校生が実際に調査したデータをもとにして考えていくことを話し、興味・関心を高める。 ◇:熊を調査することは危険であるため、実際には植物(ブナ)と動物(ネズミ)のデータを利用することを話す。熊とネズミの食生活について話したり、調査活動で使用した「わな」を実際に見せたりしながら興味・関心を高める。 □:「食う・食われる」の「食う」=熊→ネズミ、「食われる」=植物(ブナ)の関係を確認する。
		○学習プリントに植物(ブナ)と動物(ネズミ)の数をデータをもとにグラフをかき、植物(ブナ)と動物(ネズミ)の数量の変化について考えをまとめる。 ★グラフが記入できているが植物(ブナ)の増減と動物(ネズミ)の増減との関係に気づかない。  ☆植物(ブナ)の増減と動物(ネズミ)の増減との関係に気づいているが、数年後には変化が落ち着くことに気づいていなかったり、理由が考えられなかったりする。 ○班ごとに意見交換をし、考えをまとめ、ホワイトボードに記入する。 ★意見交換をしたが、意見をまとめたり、理由を見つけたりする	◇:学習プリントを配布し、データについて説明したり、数量を確認したりする。ネズミの数量をグラフにするよう伝える。 □◇:机間支援を行い、自分の考えをわかりやすくまとめさせたり、疑問に答えたり、データの読み方を教えたりする。『植物(ブナ)の木の実が多くなると動物(ネズミ)が増え、木の実が少なくなると動物(ネズミ)が減ること』を確認して、その理由を個人で考えさせる。 ★尾瀬学校コース変更の理由が『昨年、木の実が多かったため、今年は子熊が多いため』であることや、『グラフのH17~19、21~23の変化から読み取る』ことをアドバイスする。 ☆『データから、植物(ブナ)の木の実が多いと動物(ネズミ)が増え、木の実が少なくなると動物(ネズミ)が減ること』から、植物(ブナ)の増減と動物(ネズミ)の増減が関係していることや、長期的視野や生態ピラミッドで考えたりすることをアドバイスする。 □◇:班で意見を交換し合い、その考えの理由をまとめたり考えたりして、発表できるようホワイトボードにまとめさせる。 ★それぞれの意見や理由を確認し合うことで意見をまとめるようアドバイスする。

	<p>ことができない。</p> <p>☆意見交換から、意見をまとめられ、その理由を考えられている。</p>	<p>☆長期的な視野や生態ピラミッドで考えたり、その意見や理由が適切であるか考えたりするようアドバイスする。</p>
10分	<p>○班の考えを発表し合う。</p> <p>○自然界では生物がつり合いを保って生活していることや、つり合いのバランスが崩れてもいずれ元に戻ることを知る</p> 	<p>□：班ごとに、熊が増え続けるかどうかとその理由を発表させる。</p> <p>□◇：各班の発表を聞いて、『尾瀬の熊は、来年以降は増え続けることなく平常並みの数量に戻る』と考えられることを確認する。</p> <p>◇：自然界のある地域において、被食者（食われるもの）と捕食者（食うもの）のバランスが崩れても、結果的に自然界のつり合いが保たれることを説明する。一般化を図るため補助資料や教科書を使用する。</p>
振り返り 8分	<p>○学習プリントに、本時のまとめを記入する。</p>	<p>□：学習プリントに、まとめを記入させる。熊の増減だけでなく、理由なども記入させる。理由には言葉だけでなく、簡易でよいので図やグラフを使うと分かりやすいので使用するよう伝える。</p>
<p>振り返り 植物（ブナ）と動物（ネズミ）の数のデータ（図やグラフ）をもとに考えると食うものと食われるもののバランスはいずれ元に戻るため） 尾瀬の熊は、来年以降は増え続けることはなく平常並みの数量に戻る。</p>		
	○次時の説明を聞く。	□：次時の説明をする。

〈成果〉

- 中高の連携がよくとれている授業であり、尾瀬高校生のデータを使用することで、よりT2の必要性が高まっていた。また、尾瀬高校生にもよい影響を与えるのではないかと。片品中学校ならでの授業となっていた。
- 生徒のデータ処理が早くよくできていた。また、生徒がそのデータについて集中して思考していた。また、データ処理のためのプリントにラミネートを使用した工夫がよかった。
- データやトラップの提示など、生徒の興味・関心を高める工夫がされていた。

〈課題〉

- 熊とアカネズミを置き換えるのではなく、アカネズミのままでよかったのではないかと。
- 本データは、本時のような一般化を図る場面ではなく、発展的な内容を思考させる場面で使用するとよりよかったのではないかと。そうすることで、より高校の先生の専門性を生かせる場面が増えるのではないかと。
- データを読み取れたが、早くに思考できた生徒への支援をもう少し工夫するとよかった。何故そうなるのかななどの原因を考えさせてもよかったのではないかと。

理科学習プリント②-1

3年1組 番

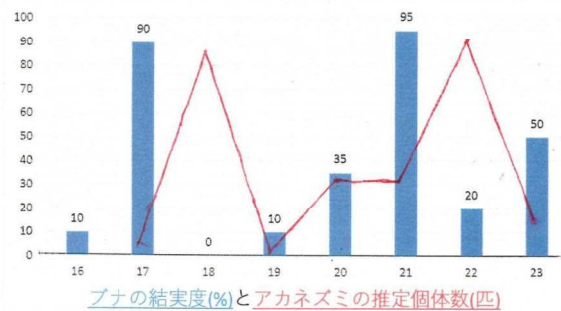
／ O・D °・W °・H %

〈めあて〉尾瀬の熊は、来年以降も増え続けるのか？考えてみよう！

＜資料＞

表1 ブナの結実度(平年を50として比較値)とアカネズミの推定個体数(匹)

年(平成)	16	17	18	19	20	21	22	23
ブナの結実度(%)	10	90	0	10	35	95	20	50
アカネズミの推定個体数(匹)		5	86	1	32	32	91	16



① グラフ(アカネズミの推定個体数)を折れ線(赤色)グラフでかきましよう。

② 完成したグラフから、「ブナの結実度」と「アカネズミの推定個体数」の数量の変化について考えられること(わかること)を記入しよう。

ブナの実が少なかったときは、食料を求めて人間の住んでいる地域により近いところまでくる？

ブナが多くてきた年は、たくさん食べられては減ってしまうが、少なかった年は死んでしまったので、ブナが少なかった次の年ネズミが増える。ブナが減った時の年のネズミの数もへる。

グラフを一年前にずらすと、ネズミの数とブナの実の数がほぼ同じになる。

- データを読み取れたが、早くに思考できた生徒への支援をもう少し工夫するとよかった。何故そうなるのかななどの原因を考えさせてもよかったのではないかと。

Ⅲ 第 68 回全国へき地教育研究大会（長野大会）

〈1〉 概要報告

群馬県へき地教育研究連盟研究部長

沼田市立多那小中学校長 瀧間 京子

第 68 回全国へき地教育研究大会が、文部科学省、長野県教育委員会、全国へき地教育研究連盟等の主催により、令和元年 10 月 10 日(木)～11 日(金)の 2 日間にわたって上田市を中心に開催された。さらに本大会は、第 18 回関東甲信越へき地教育研究大会長野大会、令和元年度長野県へき地教育研究大会としての位置づけでもあった。群馬県からは指導主事 1 名、校長 11 名に、上野村教育長の黒澤右京様、草津町教育長の吉田秀男様、片品村教育長の吉野隆哉様、草津町教育委員様 4 名を加えた 19 名が参加した。

◇ 大会前日（10 月 9 日）「全国へき地教育研究連盟秋季総会」及び「交流会」

令和元年度秋季総会が、10 月 9 日(水)15 時より上田市サントミュージーゼで開催された。また、18 時より上田市上田東急 REI ホテルにて交流会が開催された。全国各地のへき地校勤務の先生方と有意義な情報交換ができた。

◇ 大会第 1 日（10 月 10 日）「全体会・分散会」

全体会開会式は、長野大会実行委員長の開会の言葉に続き、国歌及びへき地教師の歌「太陽となろう」を斉唱し、主催者として、文部科学省初等中等教育局視学官、長野県教育委員会教育長、全国へき地教育研究連盟会長の挨拶があり、長野県知事、上田市長から来賓代表の祝辞があった。

基調報告では、まず古田統：全国へき地教育研究連盟研究部長から、第 9 次長期 5 か年研究推進計画(令和元～5 年)の概要説明があり、今年度が初年度であり、長野大会の意義について説明があった。続いて宮島豊：長野大会研究部長から長野県の取組に関する報告がなされた。

記念講演は、「教育の出発点のおきどころ」～寺に大小アレドモ、住持に大小ナシ～と題して、公益社団法人信濃教育会会長である後藤正幸氏の講演があった。

講演終了後、次年度開催地である新夕真希夫：富山県大会実行委員長の挨拶や分科会場の紹介、大会旗の引継が行われ、全体会を終了した。

アトラクションは、上田市立西内小学校金管バンドによる「シング シング シング、他」が披露された。

午後は、会場をサントミュージーゼ、隣接する上田高砂殿の 2 会場に分かれ、全国第 9 次長期 5 か年研究推進計画研究課題別に課題 1 から課題 6 までの 6 つの分散会に分かれ、それぞれ 2 校(全国ブロック 1 校、関東甲信越ブロック 1 校)の発表をもとに活発な研究協議が行われた。

◇ 大会第 2 日（10 月 11 日）「授業公開・分科会」

2 日目は、長野県下 10 小中学校(A 野沢温泉村立野沢温泉小学校、B 野沢温泉村立野沢温泉中学校、C 長野市立鬼無里小学校・中学校、D 大町市立美麻小中学校、E 塩尻市辰野町中学校組合立両小野中学校、F 辰野町塩尻市小学校組合立両小野小学校、G 北相木村立北相木小学校、H 南牧村立南牧中学校、I 伊那市立新山小学校、J 飯田市立上村小学校)で授業が公開され、その後 A～J の 10 分科会で、開会式、各学校(地域)の研究発表及び研究協議、閉会式が行われた。

〈2〉分散会発表者報告

第6分散会第2発表

みなかみ町立藤原小中学校長 石井 恵子

I 研究主題

「地域を愛し、社会の変化に主体的に対応できる児童生徒の育成」

～小中併設校の特性を生かした取組を通して～

II 研究計画

1 主題設定の理由

本校は、群馬県最北端の豪雪地帯に位置する小中併設校であり、児童数は5名、生徒数は8名の極小規模校である。小学校は標準学級数は2であるが、1・2年（各1名）が複式、3年（1名）・6年（2名）を自助努力により学年別学級で3学級編成とし、2年には複式解消非常勤職員が配置されている。中学校は標準学級数3であるが、1・2年（各3名）を自助努力により複式でなく学年別学級とし、特別支援学級1学級（1名）・3年1学級（1名）の4学級編成になっている。このような実情から7名の教諭が小中兼務発令を受けている。

児童生徒は、全校13名という中で、社会性や集団適応力の育成が課題であるが、小中連携による一貫した教育活動を推進し、地域との結びつきが深いため、冬季のスキー授業をはじめ地域の教育資源を生かした様々な取組を行っている。さらに、みなかみ町が平成26年にユネスコエコパークとして世界に認められた中、本校もユネスコスクールとして加盟し、みなかみの自然や地域の特色を活かした教育・体験、ユネスコエコパークならではの教育・体験を進めている。各教科等の学習を基礎に、総合的な学習の時間では、小学校では地域の自然や暮らしに関する課題、中学校では国際理解に関する課題を追究している。これらを通して、国際的な視野を持ち、地域の自然や暮らしをより深く理解し、自らの生き方について考えることのできる児童・生徒の育成を目指すため本主題を設定した。

2 研究仮説

小中併設校の特性を生かした特色ある学校経営によって、小規模校のデメリットをメリットに換え、町と連携したユネスコスクールとしての取組を通して、地域を愛し誇りに思う児童生徒が育成され、これからの社会の変化にも対応できる基盤となる主体性を培うことができるであろう。

3 研究内容

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| (1) 小中併設校の特性を生かした学校運営 | (2) ユネスコスクールとしての取組 |
| ① 小中兼務教員による専科授業の充実 | ① 小学校の取組 |
| ② 校務分掌の整理と統合 | ② 中学校の取組 |
| ③ 小中合同の学校行事等 | ③ 小中合同の取組 |

III 研究の実践

1 小中併設校の特性を生かした学校運営

(1) 小中兼務教員による専科授業の充実

当該教科免許状保有者による専門的かつ系統性のある教育を実践するために、小学校は3年国語（書写）・図工、6年社会・理科・外国語、全学年の体育、中学校では全学年の音楽を兼務している。中学校音楽は、発達段階と教育課程を考慮し1年は学年で、2・3年は合同で行っている。

(2) 校務分掌の整理と統合

職員数が少ないため、校務分掌を小中で連携・統合している。文書も小中共通のもの（各種案内・たより等）はまとめ、共通化・同一文書とした。行事等も主担当を輪番、またはキャリアに応じて分担し共通理解をはかりながら計画・実施している。校内研修も共通主題を設定し、小中9年間を見通した教育を推進している。

(3) 小中合同の学校行事等

学校行事：新任式、始業式、入学式、避難訓練、奉仕作業、交通安全教室、マラソン大会、運動会

児童生徒の活動：朝のあいさつ運動、学校保健委員会、いじめ防止活動への取組

朝行事：全校学校朝礼（藤原講話）、体力作り活動、児童生徒集会、全校音楽集会、読み聞かせ

中学校移行への行事：小学校の6年生が、中学校の行事に参加（少年の主張大会、進路学習会）したり、ソフトテニスクラブを設置し、中学校部活動との連携も考慮している。

2 ユネスコスクールとしての取組

(1) 小学校の取組

① 全校田植え・稲刈り

小学校1年生から参加。地元老人会の方のお世話になりながら田植えと稲刈りをし、収穫されたお米は「ふるさと藤原祭」で郷土料理「ぼた」を作って振る舞うことに使われる。



② みなかみ町環境学習発表会

町内の小学校の授業や総合的な学習の時間などで行われている自然環境やくらしなどの郷土についての学習の成果を広く一般市民にも知っていただく機会と、子どもたちが大勢の前でプレゼン等を行うなどの経験により話す（伝える）力の醸成をはかることを目的に開催されている。（今年度は令和2年2月開催予定）また、ポスターコンクールも夏休みの課題として、一人一人が人と自然の共生について考え、地域の誇りや郷土愛が育まれていくことを目的に開催されている。



(2) 中学校の取組

① F. I. E. P（フィエップ）ミーティング

FUJIWARA 藤原 INTERNATIONAL 国際 EXCHANGE 交流 PROJECT プロジェクトの略称で、国際理解教育活動である。町 ALT との交流を主とし、5月には、ダッチオープンでのピザづくりとレクリエーション（小学生も混じって）、インタビュー活動を行い、11月には、「ふるさと藤原祭」で総合的な学習の時間に調べたことを実演を交えながら ALT に英語で発表し、意見交流を行う。

(3) 小中合同の取組

① 谷川岳エコツアーリズム体験（登山）

みなかみ町の子どもたちが「地域の自然のすばらしさ、大切さを知る」とともに「自然の保護・保全に努める必要性を実体験を通して学ぶ」「日常の生活や姿勢のなかに活かす方法を考える」機会として、インタープリター（山岳ガイド）が3名付き、小中別コースで7月に実施している。



② スキー授業

地元宝台樹スキー場で、1・2月に6回程実施。アルペン班とクロカン班に分かれ、スキー学校のコーチを講師に依頼して5・6校時に設定している。送迎はスクールバスで行う。雪国ならではのスポーツの楽しさを味わいながら「運動好きな児童生徒」の育成につなげている。

IV 研究の成果と課題

1 研究の成果

- (1) 小中併設校の特性を生かした教育課程により、小中9年間を見通した教育活動が実施できている。
- (2) ユネスコスクールとしての取組により、広い視野を持ち地域を誇りに思う郷土愛が育っている。

2 研究の課題

- (1) 様々な取組がさらに主体的な活動になるよう生徒を中心に改善・工夫していきたい。
- (2) 次年度児童数は、3名となり小中合同であっても行事の継続実施の困難が予想される。

〈3〉分科会報告

B分科会

ゆたかな学びを創造する子どもと教師

～対象（ひと・もの・こと）に主体的に働きかけながら、学び合う学園～

高山村立高山中学校長 中澤 昌宏

1 会場校 野沢温泉村立野沢温泉中学校（学級数5 生徒数79名 職員数16）

2 地域・学校の概要

野沢温泉村は、長野県の北東端に位置する深山のふところに包まれる、温泉と雪と自然の恵みを受け四季の変化に富む村である。村を見守る毛無山などには、古くからぶな林が広がっており、そこに降った大量の雪が、春になり時間をかけ濾過されて湧き水や一部は暖められて温泉となって湧き出している。村の中心的な産業であるスキー場では、外国の方が多く訪れるだけでなく、近年、飲食店や民宿の経営などにも参画している。そのような環境の中で子供たちは、幼保小中一貫した英語教育、また厳しくも変化に富んだ自然、そして村の伝統や人々に囲まれてゆたかな学びを育んでいる。

3 研究の概要

(1) 研究内容

- ① 幼保小中一貫教育の学園での12年間を中心に、地域高校との連携も視野に入れた、0歳から18歳までの子供の成長を見通した計画的で質の高い教育により確かな学力と豊かな心の育成を目指す。（野沢温泉学園）
- ② こども園から小中一貫のつながりのある英語教育の指導計画により、コミュニケーション能力と国際感覚を学ぶ。
- ③ 村の伝統、文化、自然、歴史、産業など多様な素材、人材を利用し、野沢温泉村について学び、考え、かかわりを広めるふるさと学習。
- ④ 本年度の「ゆたかな学び」は、主体的・協働的な学びを軸に、子供たちの『ゆたかな学び』とそれらを通しての子供たちの『育ち』を中心に研究していく。

(2) 公開授業

- ① 1校時 1年英語（単式） COLUMBUS21Book1, Unit7 Go for it
1校時 2年総合（単式） 「村の働く人々から学ぶ～自己の生き方を考える～」
1校時 3年総合（単式） ふるさと野沢温泉村の未来
- ② 2校時 小中合同集会（小5～中3） 交流活動① ペーパータワー作り
交流活動② 学園三本柱作成に向けてのディスカッション

4 所感

野沢温泉中学校での総合的な学習の時間は、2年生、3年生ともに郷土（ふるさと）が大きなテーマになっていた。これは、近年人口流失による村の経済活動や産業の衰退を懸念した村当局の施策から重要な問題として据えられていることによるものである。特に、3年生の授業では、村議員4名をコメンテーターに迎え、自分たちの生活や将来への質問をしていた。このことにより、「自己の生き方を考える」ことにつながる授業だと感じた。

小学校との合同集会では、場所を公民館・体育館に移し、協働のペーパータワー作りと、野沢温泉学園の目指す姿（三本柱）をKJ法によりディスカッションしていた。児童生徒たちが、野沢温泉学園の教育理念をよく理解し、そこに迫るものだと感じた。

C分科会

「かかわりから自己の学び・生き方を決める」

～鬼無里で学ぶ 鬼無里に学ぶ～

沼田市立多那小中学校長 瀧間 京子

- 1 会場校 長野市立鬼無里小学校・中学校（児童生徒数 36 名 職員数 26 名）
＜小学校学級数：単式 6（複式 3）、中学校学級数：単式 3（複式 2）＞

2 地域・学校の概要

長野市中心部より西へ約 20 kmに位置し、戸隠連峰西岳などの山々に囲まれている。鬼無里地区は山林が面積の 85%を占め、ブナの原生林や水芭蕉の大群落のある自然豊かな地である。平成 28 年度より小学校の校舎で小中学生が一緒に学び、平成 30 年度より小中一貫教育校としてスタートした。運動会や音楽会、児童生徒集会等、小中学生が合同で学んでいる。コミュニティスクール「きなこの学び舎」のボランティアの指導で、クラブ活動・自然体験・林業体験・鬼女紅葉太鼓などを行い、地域のよさの体験を通してふるさとを愛する心を育てている。

3 研究の概要

(1) 研究の内容・取組

- ① 多様な学習集団で学ぶ
 - ・ 小学校：複式 中学校：合同・全校授業、小中合同行事等
 - ・ 小中教員による小中乗り入れ授業の実施
- ② 9年間をかけて高める
 - ・ 家庭学習・自主学習を小1から発達段階に応じた継続
 - ・ 小中の垣根を越えた授業参観・授業研究会の実施
 - ・ 9年間の系統性を意識した授業づくり・支援
- ③ ふるさと鬼無里を想う
 - ふるさとへの愛着と大切に想う心の育成と自己の生き方の見出し
 - ・ 9年間の生活科・総合的な学習における「鬼無里のもの・ひと・こと」との出会い
 - ・ 地域の大人の考えや生き方との触れ合い

(2) 公開授業

- ① 公開授業Ⅰ（各教室）
 - 1校時：小1・2年「ごまをそだてよう」（生活科）
3年「三角形」・4年「面積」（3・4年複式 算数科）
5年「自然災害を防ぐ」（社会科） 6年「速さ」（算数科）
中全校「鬼無里の良さを英語でPRしよう」（英語科）
- ② 公開授業Ⅱ（小学校：校舎全般、中学校：多目的ホール）
 - 2校時：小全校「麻の体験学習」（きなさタイム）
中全校「ふるさと鬼無里の未来を想う第二章」～紅葉の秋、「旅の駅」でイベント会議

4 所感

地域の方々と教員、そして児童生徒が一体となり、ふるさと愛を育むことを土台に全教育活動がなされていた。少人数校であることや地域の特性をプラス思考で発想を転換し取り組んでいるコミュニティスクールのよさを目の当たりにした。コミュニティスクールの教育力の大きさを改めて実感した。

D分科会

協働の学びの質を高める

～9年間の学びによる自律した学習者の育成～

みなかみ町立藤原小中学校長 石井 恵子

- 1 会場校 大町市立美麻小中学校
(学級数前期8、後期5 児童生徒数前期57、後期36 職員数前期13、後期10)

2 地域・学校の概要

美麻地区は長野県北部、北アルプスの麓にある大町市に属する中間地。「美麻」の地名どおり、古くから良質な麻の山地として知られ、講道館の初期柔道畳にも、美麻産の麻糸が指定された。

美麻北小中学校と南小中学校を統合し、昭和51年に美麻小学校、翌52年に美麻中学校が、施設一体型小中学校として現在の地に開校した。平成26年に小中一貫教育校となり、平成29年に義務教育学校となっている。中学校課程を7・8・9年生とし、1～4年生をホップ期、5～7年生をステップ期、8・9年生をジャンプ期とした教育課程を編成している。5年生以上を専科制とし、9年間を見通した一貫教育を行っている。

平成26年度に文部科学省型の「コミュニティ・スクール」としての指定も受け、「美麻学校運営協議会」を設置し、地域の方々の多大なる協力を得て、学校が運営されている。

3 研究の概要

(1) 研究内容

1年生から9年生までの学習を貫く授業のあり方として「聴く・問う」から始まる対話活動を基盤として、生涯に渡って学び続ける自律した学習者育成を目指し、課題について互恵的に語り合う「協働の学び」を位置付け研究している。

- ・ 「聴く・問う」から始まる対話活動のあり方や目指す対話の姿を、それぞれの学年や教科で明らかにし、学校全体での共通理解を図る。
- ・ 「単元の核心」と「単元のプロセス」を明確にすることを中心とした授業改善。
- ・ 知識・技能の「習得」と「活用」、単元の核心の「意味化」の場面の設定のあり方。

(2) 公開授業

1は、教科授業で国語4学年、算数・数学・社会・理科・外国語活動・音楽・生活単元が各1学年ずつの公開であった。どの授業も班やグループでの活動を主としていた。

2は、1・2年は生活科、3～9年までは総合的な学習の時間。5年生以上は「美麻の米づくり」「美麻の宝」「花MAME株式会社」「美麻カルタをつくろう」「美麻の軌跡」等の単元で、児童生徒が自ら課題を設定し、探究的に学習を進める美麻市民科(みあさいちみんか)の学習であった。必然性の高い単元設定、目的・ゴールを明確にした授業づくりで、美麻の地域づくりにつながる課題解決に大変意欲的に取り組んでいた。

4 所感

長野県内にある義務教育学校の一つであり、羨ましいくらいの校内環境であった。9年生の段階で目指す姿を「自律した学習者」とし、その実現に向けて9年間を見通したカリキュラムマップや総合的な学習の時間の全体計画がよく練られており、系統立てられた「学び」が貫かれていた。また、自治会組織ができており、ジャンプ期の生徒のリーダーシップにより学校内の様々な活動が生徒主体で運営されていた。全校音楽集会での児童生徒の歌声を聴きながら、教育の本質、学校経営のあり方を深く考えさせられた。授業を根幹とする学校、教科横断的な取組、深い学びに誘う「重点単元」の設定等参考にしながら今後の学校づくりに生かしていきたい。

E分科会

ふるさと「たのめの里」を知り、共に愛し、 「たのめの里」に貢献できる生徒の育成

～「やる気」「挑戦」「自信」が生まれる授業づくりを目指して～

群馬県教育委員会事務局利根教育事務所指導主事 吉野 康弘

1 会場校 塩尻市辰野町中学校組合立両小野中学校（学級数4 生徒数72名 職員数22名）

2 地域・学校の概要

両小野地区は、長野県のほぼ中央に位置し、塩尻市北小野と辰野町小野の2つの市町を学区としている。平安時代には「憑（たのめ）の里」として都に知られ、清少納言の「枕草子」にも取り上げられている。

本校は、平成23年度、地域主導による施設分離型の小中一貫「両小野学園」として設置され、翌24年度より、保育園も加えた保小中一貫教育体制を整備している。平成29年度からは、保小中一貫教育の理念に基づく、学園全体のランドデザインを作成し、両小野学園が目指す生徒の姿を具現化するために、「アントレプレナー学習」（起業家精神のもと、地域の課題を見いだす探究的な学習）や地域貢献活動「夢プロジェクト」を実施している。

3 研究の概要

(1) 研究内容

① 地域に向かって関わりを生み出していく地域貢献活動「夢プロジェクト」

「アントレプレナー学習」と「夢プロジェクト」を通して、思考力・判断力・表現力を育むことを目指す。

② 「やる気・挑戦・自信（主体的・対話的で深い学び）」の姿を生む学習支援

「やる気」「挑戦」「自信」を授業改善の共通視点とし、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。

③ 「きく力」の育成

横断的・総合的な学びの中で、人と豊かに関わる力を支える資質・能力「きく力」の育成を目指す。

(2) 公開授業

1校時 全学年：総合的な学習の時間 「アントレプレナー学習中間発表会」

2校時 全学年：特別活動 「10周年記念！土真ん中ウオーク盛り上げ隊」

4 所感

公開された総合的な学習の時間の授業では、空き家活用・地域美化、地域PR・キャラクターなどの共通したテーマごとに全校縦割りのグループを編成し、プレゼンテーションを通して、これまで地域の方と関わりながら活動してきた内容や成果を他グループの生徒や参観者に伝えていた。生徒が、地域の課題を自分事として捉え、自信をもって発表する姿が見られ、質問に対する説明や対応も的確で素晴らしかった。特別活動の授業では、「土真ん中ウオーク」で、地元の人に来てもらうために生徒会は何をするか、グループ内で検討し合意形成を図っていた。生徒同士の意見交換や協議が積極的に行われており、地域を思う生徒の気持ちを強く感じた。

両小野中学校の実践から、へき地小規模校の特性を生かし、地域との連携・協働により、子供たちが地域に貢献し役立つ活動を体験・実践することを通して、地域への所属意識を高め、地域を愛する素地を育むことにつながることを実感することができ、有意義な研修となった。

G分科会

自然や人と主体的にかかわり、 学ぶ喜びを感じ合える子どもの育成

～考えや表現の仕方を交流しながら広げ・深め、共に高め合っていく学習を通して～

高崎市立宮沢小学校長 各務 明彦

1 会場校 北相木村立北相木小学校（学級数6 児童数61名 職員数15名）

2 地域・学校の概要

群馬県上野村と隣接し、関東山地から西に走る山麓に囲まれた標高1000mの峡谷にある。村の総面積56.26km²のうち91%が山林で東西に流れる相木川に沿って農耕地が点在する地域である。昭和62年度から山村留学事業を始めたが、平成10年代終盤から児童の急減期を迎えたため、平成23年度から山村留学事業を再構築して現在に至っている。また、モジュール学習の取り組みを充実させるために私塾「花まる学習会」と連携し「論理的思考力」を高めるための授業を年20回実施している。

【在籍児童61名、山村留学センター所属19名、親子留学13名、計32名が山村留学生である。】

3 研究の概要

(1) 研究内容

自分の思いをもって学習活動をスタートさせることで、積極的なかかわりが生まれるのではないかという考えのもと、子どもの「願い」から授業を展開していくことに重点を置いている。今年度は新学習指導要領で施行される外国語・外国語活動において研究を進めている。関連した取組として、【自問清掃】【子どもたちの「願い」や「問い」をもとにした学習・モジュール学習】【縦割り班活動・交流活動・北相木に学ぶ活動】【全校・学級体育と保健・食育】を充実させることに重点を置いている。

(2) 公開授業

1校時 公開授業①

3年 チャレンジタイム・モジュール学習（音読・計算・フラッシュ計算）

5年 モジュール学習・英語モジュール（音読・計算・フラッシュパート・漢字・パート）

【参考授業】1・2年 5・6年 私塾「花まる学習会」による参考授業

2校時 公開授業②

4年 外国語活動『Let's Try 2』Unit7「What do you want?」

6年 外国語 『We Can 2』Unit4「I like my town.」

4 所感

公開授業①でのモジュール学習では、教師の的確な指示や洗練された指導法のもと、子どもたちは意欲的に学習に取り組み、習熟が図られていた。

公開授業②では、Unit goal（単元のめあて）を子どもの願いや思いを予想しながら設定していた。1時間の授業でToday's GoalとToday's Pointを設定し、毎時間つなげていくことを意識していた。

へき地校の様々な取り組みが、行政、学校、地域、保護者の学校に対する熱い思いを土台として行われていることを強く感じた。また、小規模校ならではの課題を解決するために、日々努力している教職員の子どもたちに対する思いやへき地教育に対する姿勢、また、それに応えようとしている元気な子どもたちの姿がとても印象的であった。

H分科会

自分の考えを持ち、高め合う生徒の育成

～豊かな表現の学びを目指して～

上野村立上野中学校長 荻原 孝英

1 会場校 南牧村立南牧中学校（学級数6 生徒数85 職員数20）

2 地域・学校の概要

南牧村は長野県の東端に位置し、標高1000m～1500mと高低差が大きい地域である。冷涼な気候を生かして、白菜やレタスなどの高原野菜が多く生産されている。広大な農地を生かした酪農も盛んで、乳製品は有名ブランドとなって、全国へ出荷されている。

南牧中学校は、村内に1つの中学校（小学校は2校）である。地域の主産業である農業や酪農の体験学習を1年生で2日間実施したり、3年生が中学生議会で村に提案したりするなど、地域を教材とした3年間の系統的な学習づくりに力を入れている。また、スケート学習が盛んに行われており、スケート部は県大会や全国大会に出場して好成績を収めている。平成30年度全国中学校スピードスケート競技大会において、男子総合優勝を果たしている。

3 研究の概要

(1) 研究内容

南牧中学校では、学習カードや資料を効果的に活用するための教材研究に取り組んだり、学習形態を工夫したりすることで、生徒の興味や関心の向上・喚起を図ってきている。これまでの研究成果や生徒の実態を踏まえ、以下の2点の研究仮説を軸として研究を進めている。

(仮説Ⅰ) 表現力育成のために学習形態の工夫や思考ツールを用いた学習指導を展開することで、説明の仕方や方法を考え、より分かりやすく伝えようとする姿や自分の考えを表現しようとする力を養えるのではないかと。

(仮説Ⅱ) 地域の特性を生かしたふるさと学習や学校間連携による教育を通して、郷土を愛する心情やこれからの村の発展に貢献しようとする力を養えるのではないかと。

(2) 公開授業

- ① 1校時 1年「数学」、2年「体育」、3年A組「国語」、3年B組「英語」
1、2年特別支援学級「生活単元学習」、3年特別支援学級「社会」
- ② 2校時 全学年「総合的な学習の時間」
1年「南牧村を知ろう」、2年「南牧村のひみつ」
3年「私たちのふるさと南牧村～十五歳の提言～」

4 所感

研究協議では主に「豊かな表現の学びを目指した実践の成果と課題」「村内3小中学校の連携について」「地域の特色を生かした教育活動」の3点について意見交換が行われた。授業改善だけでなく、学校の様々な教育活動の中で表現力を向上させる工夫が図られているということに取組の特色を感じた。

2日間、研究大会に参加し、へき地教育の充実に向けて指導の工夫・改善に取り組む多くの教職員の熱意を感じた。様々なへき地学校が、へき地故の課題を抱えているが、へき地の特性を強みと捉え、その特性を最大限生かしながら、授業力の向上、学校間連携、教員の育成等を通して、地域に根ざした特色ある教育に取り組んでいる。本大会で意見交換・協議された内容や実践を参考に、県内のへき地教育の充実を図っていきたい。

I 分科会

人との関わりを広げたり深めたりする力を育む 指導・支援のあり方

東吾妻町立坂上小学校長 尾澤 順子

1 会場校 伊那市立新山小学校（学級数8 児童数52名 職員数18名）

2 地域・学校の概要

明治6年からの歴史をもつ学校で、伊那市役所から東に10km、東に三界山、西に高鳥谷山を眺める静かな山間地に位置する。平成20年に市内全域から児童が就学できる「小規模特認校」の指定を受け、これまでに30名近い児童が通学してきている。全国的にも「全戸PTA」になって70有余年、地域の方々に支えられ、豊かな自然環境と少人数の特徴を活かし、児童、教職員、地域が一体となって特色ある教育活動を展開している。新山地区は、平成26年「伊那市田舎暮らしモデル地域」に指定され、更には長野県の「移住モデル地区」にも認定されて暮らしやすい田舎として期待が集まっている。

3 研究の概要

(1) 研究内容

「個別の指導計画」をもとにした一人一人の特性に応じた支援を大切にしながら、相手のことをもっとよく知ろうとする人との関わりを広げたり、深めたりする力を育むための指導の改善を図っている。

- ① 思いを伝え合う場の設定（コミュニケーション学習）
- ② ICT機器の効果的な活用（タブレット端末の活用、電子黒板、遠隔授業、プログラミング教育）
- ③ 地域素材を生かした学習活動（新山っ子タイムで、トンボ・白毛もち米等の学習）
- ④ 日々の授業の充実（授業改善、指導力向上）

(2) 公開授業

① 公開授業 I

- 1年 生活 「私のお気に入りの場所」外国語で伝え合う
- 2年 算数(遠隔授業) 「たし算ひき算のひっ算(2)」穴埋め問題
- 3年 総合的な学習の時間 (プログラミング教育)
「プログラミング教材ソフトでプログラミング体験をしよう」
- 4年 算数 「面積」L字型の複合図形の面積の求め方を考え、求める
- 5年 総合的な学習の時間
「ふよう田んぼ大作戦～白毛もち米と普通のもち米を比べよう～」
- 6年 道徳 「六年生の責任って？」Cーよりよい学校生活、集団生活の充実

② 公開授業 II

- 1～6年 新山っ子タイム 生活科や総合での活動の発表

4 所感

小規模校の特徴で、地域の協力体制や子供たちの気質も似ているところが多く、やはり中学校生活への不安も同様である。自己肯定感をもち、堂々と発言できる児童を目指したいという教師や地域の思いも同様である。それぞれを認め大切にすることや人との接し方を身に付けることは、学校の規模が小さくても大きくても大切なことであり、社会を生き抜くために必要なことである。人としての素地を培う小学校では、どの学校でも取り組むべきことであると考えている。少人数であれば少人数だからこそできる教育活動をする、欠けているところはICT機器や地域人材の活用で補うこと等、改めて確認できた研修であった。子供たちをよりよく成長させたいという教師の思いや取組こそが、学校教育を推進しているとも感じた。

J分科会

豊かな見方・考え方をもち、学び合い高め合う子どもを育成する指導・支援はどうあったらよいか

東吾妻町立岩島小学校長 松本 聡

1 会場校 飯田市立上村小学校（学級数複式3 児童数15名 職員数10名）

2 地域・学校の概要

平成17年10月、上村と飯田市との合併で、飯田市立上村小学校となり、今日に至っている。地域人口の減少に伴う少子化の影響で、平成30年度は、全校児童数が6名と見込まれていた。学校存続危機を回避するため、市に対して小規模特認校の許可を求め、地域と一体となって様々な取組を行い、平成29年12月1日に飯田市教育委員会より小規模特認校の指定を受けた。

遠方からも児童が通いたいと思える魅力ある学校づくりのため、ICTの導入、外国と遠隔システムによる「オンライン英会話」、信州大学との連携、ユネスコスクール加盟を目指したESDの取組、表現力やコミュニケーション能力を高めるためのミュージカルや合唱アンサンブル、子供漫才など様々な取組を行っている。

3 研究の概要

(1) 研究内容

- ① 複式学年別指導における、学び合い高め合う子供の育成（学年1名の場合）
 - ・児童の見方、考え方を広げる考えの提示
 - ・学習リーダーによる考えの整理や発言をつなげる場の設定
- ② ICT遠隔合同授業における、学び合い高め合う子供の育成
 - ・両校の児童の見方、考え方のズレを把握、整理
 - ・モニター画面に児童の考えを効果的に提示
 - ・両校の児童の問いをつなげる教師の支援
- ③ プログラミング学習における、学び合い高め合う子供の育成
 - ・グループの願いにそってアイデアを出し合う活動
 - ・試行錯誤を繰り返してのものづくり

(2) 公開授業

- ① 1校時 1・2年 算数（複式） 1年「たし算」 2年「かけ算」
 - 〃 3年 特別活動（単式）「1日分のおやつを量を知ろう」
 - 〃 4年 社会（単式）「強度の発展に尽くす」
 - 〃 5・6年 理科（複式）5年「電流のはたらき」 6年「電気の利用」
- ② 2校時 全校生活科・総合的な学習の時間
「ロボホンを使ったプログラミングをしよう」信州大生と関わりながら

4 所感

上村小学校は、小規模特認校特認校として魅力ある学校づくりを推進している。私が一番関心をもったのは、小規模校の悩みである「考えを練り上げる」場の設定である。上村小ではこの課題を解決する方法として信州大と共同研究している「遠隔システム」を用いての合同授業に取り組んでいる。当日は3校合同の4年生の社会科の授業を参観させてもらったが、一人の児童の発表に対してリアルタイムで質問や意見がなされ、何十人ものクラスで授業をしているのかと錯覚するほどであった。この授業が今回の公開授業のために特別準備されたわけではなく、普段の授業スタイルとして子供や先生方に浸透しているのが特に素晴らしいと思った。

資 料

I 令和元年度へき地学校資料

〈1〉級別へき地学校数

令和元. 5. 1現在

校種別 \ 級別	級別								A 計 分校	B 県全体 分校	A —— B
	県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級				
小学校	5	3	3	6	1	0	0	180	3082	5.8%	
中学校	4	2	2	4	2	0	0	140	1611	8.7%	
計	9	5	5	10	3	0	0	320	4693	6.8%	

〈2〉級別へき地本校分校別学校数

〈() 内は、内数で休校中の学校である。〉

令和元. 5. 1現在

校種別 \ 級別	級別								小計	合計
	県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級			
小学校	本校	5	3	3	6	1	0	0	18	18
	分校	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)
中学校	本校	4	2	2	4	2	0	0	14	14
	分校	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)

〈3〉級別へき地学校児童数

令和元. 5. 1現在

校種別 \ 級別	級別								計 (A)	県全体 (B)	A —— B
	県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級				
小学校	545	579	209	227	48	0	0	1,608	97,214	1.7%	
中学校	259	137	303	121	38	0	0	858	50,463	1.7%	
計	804	716	512	348	86	0	0	2,466	147,677	1.7%	

〈4〉郡市別へき地学校数一覧

（ ）内は、内数で休校中の学校である。

令和元. 5. 1現在

No.	郡市	学校数			内 訳							合 計	
		本校	分校	計	文 部 科 学 省 指 定						県 準		
					4	3	2	1	準	特			
1	高 崎	2小 1中		2 1						2		1	2 1
2	安 中	1 1		1 1								1 1	1 1
3	多 野	2 2		2 2			1 2	1					2 2
4	甘 楽											1	1
5	吾 妻	9 5		9 5				3 2	1 1	2 1	3 1	1 1	9 5
6	沼 田	1 2		1 2				1 1				1 1	1 2
7	利 根	3 2		3 2				1 1		1 1	1	1	3 2
総	小 計	18 14	0(0) 0(0)	18(0) 14(0)			1 2	6 4	3 2	3 2	5 4	18(0) 14(0)	
	計	32	0(0)	32(0)	0	0	3	10	5	5	9	32(0)	

〈5〉複式学級の郡市別、編制別、学級一覧(小学校のみ)

令和元. 5. 1現在

郡市	学年	1・2年	2・3年	3・4年	4・5年	5・6年	3・4・5年	4・5・6年	学級数計	学校数
高崎市		0	0	1	0	0	0	0	1	1
多野郡		0	0	1	0	0	0	0	1	1
吾妻郡		0	1	1	0	0	0	0	2	2
沼田市		0	0	1	0	0	0	0	1	1
利根郡		1	0	0	0	0	0	0	1	1
計		1	1	3	0	0	0	0	6	6

〈6〉 級別へき地学校児童・生徒数の推移（小・中学校別）

年度	県 準		特 地		国 準		1 級		2 級		3 級		4 級		計(A)		県全体(B)		(A)/(B)(%)	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
昭50	6,992	3,741	898	506	1,039	294	1,678	433	108	56	29	0		10,744	5,030	160,642	73,952	6.7	6.8	
昭51	6,872	3,617	828	460	1,032	177	1,496	413	101	48	23	0		10,352	4,715	164,571	74,866	6.3	6.3	
昭52	6,963	3,270	793	431	970	260	1,522	381	76	43	17	0		10,341	4,385	168,404	77,137	6.1	5.7	
昭53	6,718	3,335	744	407	918	254	1,475	348	60	52	15	0		9,930	4,396	175,155	78,059	5.6	5.6	
昭54	6,649	3,312	673	370	911	231	1,458	306	63	38	14	0		9,768	4,257	184,018	76,447	5.3	5.5	
昭55	6,664	2,983	654	329	981	326	1,255	299	52	35	14	0		9,620	3,972	188,039	79,196	5.1	5.0	
昭56	6,751	3,009	629	310	928	198	1,184	183	47	24	11	0		9,370	3,724	190,882	83,125	4.9	4.5	
昭57	6,559	3,038	603	317	870	221	1,141	302	46	26	11	0		9,230	3,904	191,613	89,121	4.8	4.4	
昭58	6,377	2,945	598	318	958	200	1,109	294	45	18	3	0		9,007	3,775	190,368	89,857	4.7	4.2	
昭59	6,161	2,935	578	311	863	205	1,051	279	51	13	4	0		8,708	3,743	186,953	92,462	4.6	4.0	
昭60	5,808	2,958	570	320	843	196	982	284	47	15	4	0		8,254	3,773	181,535	95,924	4.5	3.9	
昭61	5,623	2,897	575	284	756	206	898	272	50	17	1	0		7,903	3,676	174,525	98,645	4.5	3.7	
昭62	5,433	2,776	536	265	723	215	852	267	48	19	1	0		7,593	3,542	167,356	98,603	4.5	3.6	
昭63	5,308	2,679	664	248	662	224	715	202	46	16	2	0		7,397	3,369	161,507	95,748	4.6	3.5	
平元	5,185	2,497	652	238	629	210	686	199	48	14	1	0		7,201	3,158	156,680	91,502	4.6	3.5	
平2	2,328	783	1,140	783	1,518	421	1,609	816	110	19	11	9	1	6,717	2,831	152,668	87,619	4.4	3.2	
平3	2,252	766	1,142	813	1,486	391	1,597	799	29	83	14	8	1	6,521	2,860	149,153	85,001	4.3	3.3	
平4	2,168	733	1,140	782	1,422	390	1,538	813	23	77	11	7		6,302	2,802	145,739	82,396	4.3	3.4	
平5	2,110	680	1,110	803	1,356	407	1,506	1,186	18	71	10	5		6,110	3,152	142,339	79,203	4.3	4.0	
平6	2,047	614	1,097	796	1,293	407	1,448	751	13	72	5	9		5,903	2,649	139,346	76,265	4.2	3.5	
平7	1,977	589	1,065	803	1,242	375	1,414	726	10	68	12	8		5,720	2,569	136,361	74,105	4.2	3.5	
平8	1,425	339	1,582	1,013	1,098	369	1,283	710	97	58	2	8		5,487	2,497	132,149	73,180	4.2	3.4	
平9	1,334	314	1,503	1,010	1,117	364	1,203	712	80	69	1	3		5,238	2,472	128,340	72,283	4.1	3.4	
平10	1,298	302	1,469	940	1,049	346	1,128	703	76	58	0	0		5,020	2,349	125,648	70,481	4.0	3.3	
平11	1,222	292	1,398	921	995	329	1,096	713	78	58	0	0		4,789	2,313	123,443	67,831	3.9	3.4	
平12	1,160	285	1,350	858	953	336	1,044	692	77	47	0	0		4,584	2,218	121,396	65,681	3.8	3.4	
平13	1,042	312	1,318	840	920	333	999	682	64	44	0	0		4,343	2,211	120,264	64,305	3.6	3.4	
平14	1,132	476	932	475	1,148	325	794	644	4	41	0	0		4,010	1,961	119,455	63,335	3.4	3.1	
平15	1,114	474	1,039	581	951	288	768	613	0	43	0	0		3,872	1,999	119,760	60,356	3.2	3.3	
平16	1,090	231	809	535	1,116	243	698	563	0	43	0	0		3,713	1,572	119,273	58,629	3.1	2.7	
平17	1,093	353	774	398	1,033	217	665	567	0	35	0	0		3,565	1,570	118,877	58,272	3.0	2.7	
平18	1,086	342	731	401	1,019	205	620	554	0	39	0	0		3,456	1,541	118,536	58,059	2.9	2.6	
平19	1,020	341	708	415	952	193	584	567	0	33	0	0		3,264	1,549	117,423	58,034	2.8	2.7	
平20	921	316	647	407	887	191	531	516	0	32	0	0		2,986	1,462	117,196	57,621	2.5	2.5	
平21	863	307	628	392	819	183	534	499	0	29	0	0		2,844	1,410	115,679	58,195	2.5	2.4	
平22	1,380	636	592	312	301	124	473	384	137	62	0	0		2,883	1,518	114,650	57,508	2.5	2.6	
平23	1,233	563	568	356	403	118	440	370	134	65	0	0		2,778	1,472	112,674	57,383	2.5	2.6	
平24	1,107	530	534	336	346	16	433	449	125	58	0	0		2,545	1,389	110,375	56,626	2.3	2.5	
平25	1,095	521	421	337	323	23	421	421	123	57	0	0		2,383	1,359	108,395	56,228	2.2	2.4	
平26	904	421	405	313	420	34	391	421	126	49	0	0		2,246	1,238	106,219	55,987	2.1	2.2	
平27	715	332	515	282	407	40	296	378	54	52	0	0		1,987	1,084	104,539	55,301	1.9	2.0	
平28	647	282	651	174	213	364	276	151	53	52	0	0		1,840	1,023	102,642	54,577	1.8	1.9	
平29	592	284	612	167	199	337	266	128	43	57	0	0		1,712	973	100,903	53,102	1.7	1.8	
平30	580	253	613	156	218	312	249	115	46	48	0	0		1,706	884	99,461	51,510	1.7	1.7	
令元	545	259	579	137	209	303	227	121	48	38	0	0		1,608	858	97,214	50,463	1.7	1.7	

II 令和元年度 群馬県へき地教育振興会役員

令和元. 6.27現在

会 長 星野巳喜雄 (沼田)

副会長 田村 利男 (多野：神流町長) 山口 廣 (吾妻：吾妻郡町村教育委員会
梅澤 志洋 (利根：片品村長) 連絡協議会会長)

理 事 飯野 眞幸 (高崎：高崎市教育長) 竹内 徹 (安中：安中市教育長)
黒澤 右京 (多野：上野村教育長) 浅川美代子 (甘楽：南牧村教育長
職務代理者)

山口 廣 (吾妻：吾妻郡町村教育委員会 星野巳喜雄 (沼田)
連絡協議会会長)

梅澤 志洋 (利根：片品村長)

評議員

郡 市	町 村	評 議 員
高 崎 市		飯 野 眞 幸 (教育長)
安 中 市		竹 内 徹 (教育長)
多 野 郡	上 野 村	黒 澤 右 京 (教育長)
	神 流 町	山 田 孝 行 (教育長)
甘 楽 郡	南 牧 村	浅 川 美 代 子 (教育長職務代理者)
吾 妻 郡	中 之 条 町	宮 崎 一 (教育長)
	長 野 原 町	市 村 隆 宏 (教育長)
	嬬 恋 村	地 田 功 一 (教育長)
	草 津 町	吉 田 秀 男 (教育長)
	高 山 村	山 口 廣 (教育長)
	東 吾 妻 町	小 林 靖 能 (教育長)
沼 田 市		横 坂 隆 司 (教育長)
利 根 郡	片 品 村	吉 野 隆 哉 (教育長)
	昭 和 村	堤 義 樹 (教育長)
	みなかみ町	田 村 義 和 (教育長)

監 事 市 村 隆 宏 (吾妻：長野原町教育長) 吉 野 隆 哉 (利根：片品村教育長)

令和元年度へき地教育振興会事務局及び郡市町村事務担当者・担当指導主事

事務局 書記・会計 綿貫 充 ・高橋 学

市町村	連 絡 先	事務担当者	へき地担当指導主事
高 崎 市	高崎市教育委員会	上 村 英 之	阿 部 充 寿 (西部教育事務所)
安 中 市	安中市教育委員会	森 本 千 春	
上 野 村	上野村教育委員会	小 池 啓 満	
神 流 町	神流町教育委員会	菊 池 栞	
南 牧 村	南牧村教育委員会	今 井 誠	
中 之 条 町	中之条町教育委員会	矢 嶋 将 之	木 村 裕 子 (吾妻教育事務所)
長 野 原 町	長野原町教育委員会	菅 谷 麻 子	
嬬 恋 村	嬬恋村教育委員会	目 黒 康 子	
草 津 町	草津町教育委員会	長 井 菜 穂	
高 山 村	高山村教育委員会	金 井 等	
東 吾 妻 町	東吾妻町教育委員会	片 貝 修	吉 野 康 弘 (利根教育事務所)
沼 田 市	沼田市教育委員会	金 子 平	
片 品 村	片品村教育委員会	荒 木 亜 美	
昭 和 村	昭和村教育委員会	綿 貫 寿 美 子	
みなかみ町	みなかみ町教育委員会	長 谷 川 基	

Ⅲ 令和元年度 群馬県へき地教育研究連盟役員

役員

- ・理事長 松本 聡 (吾妻：東吾妻町立岩島小学校)
- ・副理事長 小池 政一 (高崎：高崎市立倉渕小学校)
- 篠原 正洋 (吾妻：中之条町立六合中学校)
- 瀧 聞京子 (沼田：沼田市立多那小中学校)
- ・常任理事 萩原 孝英 (多野：上野村立上野中学校)
- 雲 越誠司 (利根：片品村立片品中学校)
- ・事務局長 尾澤 順子 (吾妻：東吾妻町立坂上小学校)
- ・会計部長 篠原 彰仁 (吾妻：嬭恋村立東部小学校)
- ・理事

ブロック 郡市	氏名	勤務校	勤務校所在地 (電話番号)	備考
A 高崎 ・安中 ・多野 ・甘楽	小池 政一	高崎市立倉渕小学校	高崎市倉渕町権田 3 1 4 - 1 (0 2 7 - 3 7 8 - 3 2 1 8)	副理事長
	萩原 孝英	上野村立上野中学校	多野郡上野村檜原 1 1 3 (0 2 7 4 - 5 9 - 2 0 4 0)	調査部長 常任理事
	久保 俊明	南牧村立南牧中学校	甘楽郡南牧村大日向 1 0 4 5 (0 2 7 4 - 8 7 - 2 5 0 1)	
	竹村 俊夫	神流町立万場小学校	多野郡神流町万場 8 4 - 2 (0 2 7 4 - 5 7 - 2 3 2 0)	
	萩原 孝志	安中市立細野小学校	安中市松井田町新井 3 6 5 (0 2 7 - 3 9 3 - 1 3 2 2)	
B 吾妻	松本 聡	東吾妻町立岩島小学校	吾妻郡東吾妻町岩下 4 6 (0 2 7 9 - 6 7 - 2 0 3 9)	理事長
	篠原 正洋	中之条町立六合中学校	吾妻郡中之条町生須 5 4 3 - 1 (0 2 7 9 - 9 5 - 3 5 7 2)	副理事長
	尾澤 順子	東吾妻町立坂上小学校	吾妻郡東吾妻町本宿 3 8 9 (0 2 7 9 - 6 9 - 2 0 0 5)	事務局長 総務部長
	篠原 彰仁	嬭恋村立東部小学校	吾妻郡嬭恋村三原 6 7 9 - 3 (0 2 7 9 - 9 7 - 3 0 2 6)	会計部長 常任理事
	山野 悟	長野原町立北軽井沢小学校	吾妻郡長野原町北軽井沢 1 9 2 4 (0 2 7 9 - 8 4 - 3 0 1 0)	

アロック 郡市	氏 名	勤 務 校	勤務校所在地（電話番号）	備 考
C 利 根 ・ 沼 田	瀧間 京子	沼田市立多那小中学校	沼田市利根町多那732 (0278-53-2919)	副理事長 研究部長
	雲越 誠司	片品村立片品中学校	利根郡片品村大字鎌田 4480 (0278-58-2019)	常任理事
	林 徹志	昭和村立大河原小学校	利根郡昭和村糸井 5455-354 (0278-24-7166)	
	石井 恵子	みなかみ町立藤原小中学校	利根郡みなかみ町藤原 3491 (0278-75-2102)	
	諸田 義行	沼田市立利根中学校	沼田市利根町迫貝334 (0278-56-2044)	
「板木」 実務 担当	久保 俊明	南牧村立南牧中学校	甘楽郡南牧村大日向1045 (0274-87-2501)	

IV 令和元年度 群馬県へき地教育センター指導員

センター名	氏 名	勤 務 先	勤務校所在地（電話番号）
吾 妻	小野塚 則幸	長野原町立第一小学校内	〒377-1309 吾妻郡長野原町大字林1394-5 (0279-82-2145)
利 根	林 和高	利根教育事務所内	〒378-0031 沼田市薄根町4412 (0278-23-0165)

V 令和元年度へき地教育功労者

No.	氏名	該当する内規・功績の概要
1	<small>くろさわ まもる</small> 黒澤 守 神流町教育委員会推薦	平成31年3月に神流町立万場小学校校長として退職するまで、多野郡内のへき地学校に32年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
2	<small>なかざわ ひろし</small> 中沢 博 中之条町教育委員会推薦	平成31年3月に中之条町立六合中学校校長として退職するまで、吾妻管内のへき地学校に26年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
3	<small>なかじま とおる</small> 中島 透 長野原町教育委員会推薦	平成31年3月に長野原町立中央小学校校長として退職するまで、吾妻管内のへき地学校に27年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
4	<small>たかぎ しげる</small> 高木 茂 嬭恋村教育委員会推薦	平成31年3月に嬭恋村立西部小学校教諭として退職するまで、吾妻管内のへき地学校に33年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
5	<small>かべ よしもと</small> 加部 善基 草津町教育委員会推薦	平成31年3月に草津町立草津中学校教諭として退職するまで、吾妻管内のへき地学校に36年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
6	<small>なかざわ しゅうじ</small> 中澤 修二 沼田市教育委員会推薦	平成31年3月に沼田市立沼田西中学校補佐事務長として退職するまで、吾妻管内のへき地学校に21年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。

あ と が き

群馬県へき地教育資料「板木」第68集の発刊にあたり、ご指導下さいました群馬県教育委員会の皆様をはじめ、ご協力いただきました関係各位に心より感謝申し上げます。

「板木」は、昭和27年に群馬県へき地教育の資料集として第1号が創刊され、以来途切れることなく刊行されてきました。この間、多くの方々のご努力により、群馬県におけるへき地教育の歩みを示す貴重な資料として活用され、その価値を確かなものとしています。

今年度は、第68回群馬県へき地教育研究大会が片品村立片品小学校及び片品村立片品中学校で開催されました。午前は、全体会と班別研究協議、午後からは、公開授業及び授業研究会が行われ、へき地教育についての考えを深める貴重な機会となりました。そこで紹介されたへき地のよさを生かした学校経営や公開授業とともに、学習指導・生徒指導の実践、第68回全国へき地教育研究大会（長野大会）の報告等もこの「板木」に掲載させていただきました。各校の教育実践の参考にしていただければ幸いです。へき地教育の推進を図っていく一方で、児童生徒数の減少により、へき地校の状況は厳しくなっていますが、みんなで力を合わせ、へき地教育を盛り上げていきたいものです。

今年度も、へき地教育に携わる多くの方々から、原稿執筆や編集等のご協力をいただき、無事にへき地教育の記録を残すことができました。心からお礼申し上げます。完成した「板木」第68集が、今後のへき地教育推進の資料としてより多くの方々に活用されることを願っております。

なお、「板木」作成に携わった編集委員は、以下の通りです。

群馬県教育委員会事務局	鈴木 佳子（義務教育課長）
	大竹 康史（義務教育課 教科指導係長）
	綿貫 充（義務教育課 教科指導係 指導主事）
	高橋 学（義務教育課 教科指導係 指導主事 板木担当）
群馬県へき地教育研究連盟	松本 聡（県へき連 常任理事・理事長）
	瀧間 京子（県へき連 常任理事・副理事長・研究部長）
	小池 政一（県へき連 常任理事・副理事長）
	篠原 正洋（県へき連 常任理事・副理事長・広報担当）
	尾澤 順子（県へき連 常任理事・事務局長・総務部長）
	篠原 彰仁（県へき連 常任理事・会計部長・総務部）
	雲越 誠司（県へき連 常任理事・監査）
	荻原 孝英（県へき連 常任理事・調査部長）
	林 徹志（県へき連 理事・総務部・図書担当）
	山野 悟（県へき連 理事・調査部・新聞担当）
	萩原 孝志（県へき連 理事・総務部）
	石井 恵子（県へき連 理事・研究部）
	諸田 義行（県へき連 理事・調査部）
	竹村 俊夫（県へき連 理事・監査・調査部）
	久保 俊明（県へき連 理事・研究部・板木担当）

